

平成7年度

高齢者歯科口腔保健実態調査

報 告

72 歳 中 心

(社)全国国民健康保険診療施設協議会

目 次

1. 調査設計

- ① 調査目的 P. 3
- ② 調査主体 P. 4
- ③ 調査対象
- ④ 調査方法
- ⑤ 調査項目 P. 5
- ⑥ 調査日程 P. 8
- ⑦ 費用

2. 訪問調査実施担当者及び延べ人数 P. 9

3. 調査対象者の構成

- ① 調査対象施設と有効調査実施人数の概要 P. 10
- ② 年齢構成
- ③ 男女構成
- ④ 地域人口規模別 P. 12
- ⑤ 高齢化率別
- ⑥ 72歳の調査実施率

4. 全体集計結果と考察

- ① 使用寝具 P. 14
- ② 昼夜の衣服の区別状況
- ③ ホームヘルパーの訪問状況
- ④ 生活場所 P. 15
- ⑤ 日常生活自立度（寝たきり度）
- ⑥ 歯みがき指導受診状況
- ⑦ 歯科定期検診受診状況と受診場所
- ⑧ 咀嚼機能満足度
- ⑨ 歯の状況（義歯の状況） P. 17
- ⑩ 歯ブラシ以外の清掃用器具の使用状況 P. 19

〈歯間部清掃用器具〉 〈義歯用洗淨剤〉 〈義歯用ブラシ〉	
⑪ 全身疾患の有無と病名	P. 20
⑫ 判定・評価（歯科）と処置内容	P. 21
⑬ 年間総医療費（平成6年度）	P. 22
〈入院〉 〈入院外〉 〈歯科〉 〈その他〉	
⑭ B. M. I.（体格指数）	P. 24
5. クロス集計結果と考察	
① 使用寝具	P. 25
② 昼夜の衣服の区別状況	P. 26
③ ホームヘルパーの訪問状況	P. 28
④ 生活場所	P. 29
⑤ 日常生活自立度（寝たきり度）	P. 31
⑥ 咀嚼機能満足度	P. 34
⑦ 歯の状況（機能現在歯数）	
(A) 機能現在歯数	P. 38
(B) 義歯の状況	P. 41
2 ⑧ 全身疾患	
(A) 全身疾患の有無	P. 43
(B) 脳卒中	P. 45
⑨ 判定・評価（歯科）	P. 48
⑩ 年間総医療費（平成6年度）	
(A) 総医療費合計	P. 50
(B) 入院	P. 57
(C) 入院外	P. 62
(D) 歯科	P. 67
6. 結論・総括	P. 72

1. 調査設計

① 調査目的

平成6年度より、全国国民健康保険診療施設協議会（会長 公立みつぎ総合病院 院長 山口 昇 以下「国診協」という）に歯科部会が、設置された。

従来より、国診協が実践してきた、包括的地域医療の流れを、歯科の立場からも参画し、充実させていく必要がある。

このようなことに鑑み、平成6年度は、歯科を標榜する国保直診が中心となって、保健・医療・福祉の連携のもとに、診療圏内の高齢者（80歳・大正3年生まれを中心に）を対象に実態調査を行った。

平成7年度は、その結果を踏まえ、さらに調査対象者を、72歳（大正12年生まれ）を中心とし、彼らが、80歳になる平成15年に向けての、具体的、効果的な歯科保健対策を講ずるための基礎資料とすることを目的とする。

（付）

- 1) 国保直診等における歯科医療を、保健、福祉とさらに連携させる契機となるものとする。
- 2) 歯の状態（本数や咀嚼能力等）と、全身状態の関連性を調査する。特に、健全な口腔状態と、全身状態の相関関係を「年間総医療費」で証明し、生涯を通じての歯科保健に力を注ぐことが国民の健康を増進し、ひいては全体医療費を減少させる大きな要因になることを示す。
- 3) 各施設が抱える地域の歯科保健の実態、意識及び生活調査を実施し今後の活動方針をたてる資料とする。

- 4) 単に調査だけでにとどまらず口腔状態に応じた指導を行い、合わせて調査対象者のアフターフォローをも考慮する。
- 5) 近未来（平成15年）へ向けての活動目標、方針の設定資料とする。

② 調査主体

- 調査企画及び分析 —— 国診協 歯科部会
- 集計 —— (株)医療産業研究所

③ 調査対象（P.11 図2参）

1) 調査対象施設

平成6年度に於いて、本調査を実施した31施設に調査依頼をし、29施設を設定した。

2) 調査対象者

調査対象施設の診療圏内に居住する下記の高齢者約100人を無作為に選定した。

1. 【必須対象者】大正12年生まれ（設定年齢72歳）
2. 【任意対象者】大正11年生まれ（設定年齢73歳）以前の者

④ 調査方法

1. 各施設ごとに「調査検討委員会」を設置し十分な打合せを行うとともに、各関係者の協力を得られるようにした。
2. 歯科関係者と、保健福祉等関係者で訪問チームをつくり、訪問面接調査を行うことを基本とした。（P.9参）

⑤ 調査項目

1 【必須項目】（P.7 図1参）

〔生活関係〕

1. 使用寝具
2. 昼夜の衣服の区別
3. ホームヘルパーの訪問状況
4. 生活場所
5. 日常生活自立度（寝たきり度）

〔歯科関係〕

6. 歯みがき指導
7. 歯科定期検診（この1年間に）
8. 咀嚼機能満足度
9. 歯の状況（義歯の状況）
10. 歯ブラシ以外の清掃用器具の使用状況

〔その他〕

11. 年間総医療費（平成6年度）
－入院、入院外、歯科、その他－
12. 全身疾患
13. 判定・評価（歯科に関して）
14. B. M. I. （体格指数）

2 【任意項目】

各地域、施設の実状に応じた任意調査項目を設定し、同時に調査を行っても良いとした。

3 【平成6年度（80歳中心）の調査と異なる調査項目】

1. ホームヘルパーの訪問状況のみとし、将来的な意向は削除した。
2. 歯の状況で機能現在歯数に加えて、義歯の状況も考慮に入れ、以下の通り4つのグループに分類した。

グループ	歯（義歯）の状況
A	機能現在歯数が0～9本で、義歯なし (食事の時未使用)
B	機能現在歯数が0～9本で、義歯あり (食事の時使用)
C	機能現在歯数が10～19本
D	機能現在歯数が20本以上

3. 年間総医療費を、入院、入院外、歯科、その他に分類、集計した。
4. 全身疾患の病名項目に、骨粗鬆症を追加した。
5. 身長(cm)、体重(kg)を測定し、B. M. I. (体格指数)を求め、肥満度を調査した。

高齢者歯科口腔保健実態調査票

平成7年度

担当施設名 ()

生れ年	年齢(歳) - 整理No.	氏 名	性	電話番号	地 区
M T S 年	- 歳	cm kg	男・女	()	
調査日		訪問・調査者		回 答 者	
年 月 日		(Dr)	()	1. 本人	
		(DH)	()	2. その他()	

- ① 寝具は何を使っていますか。 1. ベット 2. ふとん
- ② 昼と夜は衣服を区別していますか。 1. している 2. していない
- ③ ホームヘルパーの訪問を受けていますか。 1. 受けている 2. 受けていない
- ④ 現在の生活場所は。
1. 自宅 2. 医療施設(入居) 3. 福祉施設 4. その他()
- ⑤ 日常生活自立度(寝たきり度)

J: 生活自立	A: 準寝たきり	B: 寝たきり(ベッド中心)	C: 寝たきり(座位不可)
J-1 遠方外出可	A-1 屋内自立	B-1 自力で車イス移乗可	C-1 自力で寝返り
J-2 近所外出可	A-2 寝たり起きたり	B-2 介助で車イス移乗可	C-2 自力で寝返り不可

- ⑥ 歯みがき指導(義歯の手入れ等も含む)
1. 受けたことがある — a. 医療機関 b. 健康教育等 c. その他()
2. 受けたことがない
- ⑦ 歯科定期検診(この1年間に)
1. 受けたことがある — a. 医療機関 b. 集団検診 c. その他()
2. 受けていない(具合の悪い時のみ受診)
- ⑧ 咀嚼機能満足度
1. 歯(義歯)のことを気にせず、どんなものでも食べられる。
2. 中間度(なんとか、まあまあ)
3. 食べることに大変不自由しており、もう少し食べられる歯(義歯)がほしい。
4. その他

⑨ 歯の状況

(第1号様式)

F	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	F	A: 0~9本 義歯なし B: 0~9本 義歯あり C: 10~19本 D: 20本以上
D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	

機能現在歯	健全歯 /	未処置歯D	欠損歯 M	処置歯 F	D	M	F
本	本	本	本	本	本	本	本

欠損補綴状況

_____ Br _____ PD, FD

⑩ 歯ブラシ以外の清掃用器具の使用状況 (該当するところに○)

対象者に○	器 具 名	使用状況		
		毎 日	時 々	未使用
	歯間清掃用 (a)歯間ブラシ (b)デンタルフロス (c)その他()			
	義歯用 洗浄剤			
	ブラシ			

- ⑪ 全身疾患
1. なし
2. あり — (a)糖尿病 (b)肝臓病 (c)脳卒中 (d)腎臓病 (e)高血圧
(f)甲状腺疾患 (g)心臓病 (h)結核 (i)気管支喘息
(j)胃・十二指腸潰瘍 (k)癌(腫) (l)リウマチ
(m)骨粗鬆症 (n)その他()

判定・評価

- ①訪問指導 (a)外科処置()
- ②訪問治療 (b)補綴処置()
- ③通院治療 (c)保存処置()
- ④処置不要 (d)抜歯処置()
- ⑤処置不能 (e)その他()
- 備 考

平成6年度年間医療費

(3月~2月)

入居	入院	入院外	歯科	その他	合計
.....
.....
.....
.....
.....

⑥ 調査日程

- 平成7年7月 調査対象施設選定
- " 8月18日 第1回中央打合せ（調査前打合せ会）
- " 9月～12月 調査実施
- 平成8年3月27日 第2回中央打合せ（調査後検討会）
- " 3月 報告

⑦ 費用

平成7年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）による事業とし調査対象施設には、予算の範囲内で、調査費用を交付した。

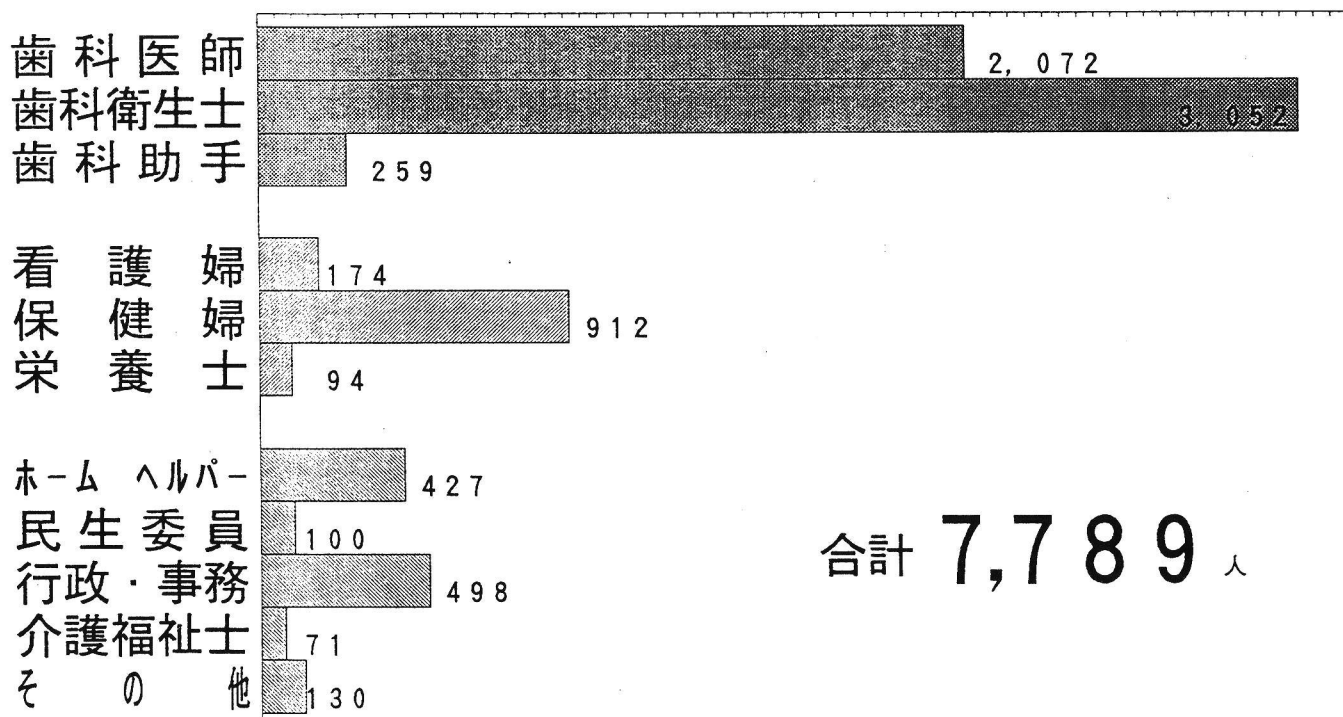
2. 訪問調査実施担当者及び延べ人数

今回の調査目的の1つに、国保直診等における歯科医療を保健・福祉等の関係者とさらに連携をとる契機となることが、あげられている。

その為に「調査検討委員会」を設置し、チームをつくり訪問、調査された。2,968人の訪問調査に対し、多種職の延べ7,789人が出務した。(1人当たり2.6人が担当)

このネットワークは調査後の大きな財産となり、今後の地域歯科医療に大きく役立つものと期待したい。

訪問・調査実施担当者 延べ人数



3. 調査対象者の構成

① 調査対象施設と有効調査実施人数の概要 (P.11 図2参)

全国29施設で調査が実施され、有効調査実施人数は2,968人であった。

必須調査対象者の72歳は、1,947人であった。

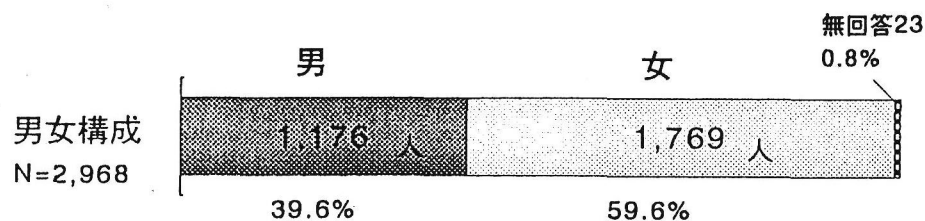
② 年齢構成

平均年齢は72.6歳であった。

必須調査対象者の72歳(大正12年生まれ)が、65.6%の1,947人であった。

③ 男女構成

男女比は約2 : 3であった。



調査対象施設と有効調査実施人数の概要

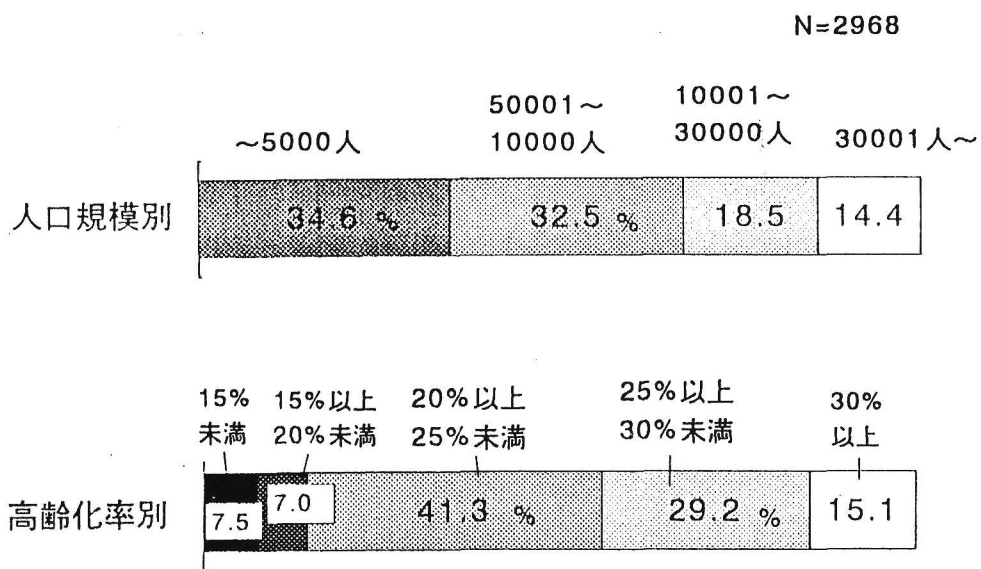
No.	施設名	調査地域人口 (人)	高齢化率 (%)	72歳(大正12年生まれ)			全体有効調査 実施人数(人)
				人口(人)	有効調査実施人数(人)	調査率(%)	
1	北海道 大成町歯科診療所	3,006	29.9	40	34	85.0	88
2	岩手 衣川村国保歯科診療所	5,680	21.1	72	65	90.3	122
3	岩手 宮守村国保歯科診療所	5,875	25.4	71	33	46.5	107
4	岩手 胆沢町国保若柳病院	28,172	19.6	167	102	61.1	102
5	岩手 新里村国保診療所	4,192	24.0	55	51	92.7	100
6	岩手 平泉町国保歯科診療所	9,514	20.8	96	85	88.5	100
7	茨城 七会村国保診療所	2,709	22.5	35	32	91.4	117
8	茨城 緒川村国保歯科診療所	5,083	26.3	78	76	97.5	118
9	茨城 美和村国保診療所	5,192	26.1	73	73	100.0	111
10	千葉 君津中央病院	329,735	13.8	1,988	42	2.1	100
11	新潟 ゆきぐに大和船廠	15,235	21.0	178	102	57.3	102
12	新潟 寺泊町国保診療所	12,835	22.9	145	100	69.0	100
13	富山 市立砺波総合病院	38,859	18.8	352	105	29.8	105
14	長野 飯綱行政組合飯綱病院	13,619	20.7	131	101	77.1	107
15	岐阜 和良村国保病院	2,496	29.3	42	29	69.0	102
16	京都 舞鶴国保久美浜病院	12,751	26.3	129	38	29.5	38
17	兵庫 大屋町国保大屋船廠	5,123	31.2	96	85	88.5	100
18	兵庫 美方町国保大谷診療所	2,864	30.1	46	44	95.7	133
19	兵庫 村岡町国保塚船廠	7,330	26.2	88	86	97.7	102
20	兵庫 宝塚市国保診療所	205,669	12.3	1,344	122	9.1	122
21	鳥取 佐治村国保診療所	3,297	25.1	40	38	95.0	115
22	島根 美都町国保歯科診療所	3,033	30.0	55	52	94.5	113
23	岡山 川上診療所	4,577	32.5	90	87	96.7	101
24	広島 公立みつぎ総合病院	8,374	24.4	135	101	74.8	101
25	広島 芸北町国保雄鹿原船廠	3,414	28.8	49	43	87.8	86
26	香川 三豊総合病院	22,908	22.1	286	100	35.0	100
27	福岡 田川市立病院	57,119	20.2	637	45	7.1	100
28	熊本 国保柳立上天草船廠	6,081	24.0	69	61	88.4	105
29	大分 姫島村国保診療所	3,200	21.9	38	15	39.5	71
	全 体	827,942	24.0	6,625	1,947	29.4	2,968

④ 地域人口規模別

人口30,000人以下の小規模の地域で全体の85.6%をしめた。

⑤ 高齢化率別

高齢化率が、20%以上の地域で、全体の85.5%をしめた。



⑥ 72歳の調査実施率 (P.13 図3参)

各地域の実状により異なるが、調査地域人口が少なく又、高齢化率が高い地域が、実施率も高く、よりその地域の72歳の実態が、調査されたと思われる。(P.11 図2参)

72歳調査実施率

人口規模別

調査地域人口	施設数	調査実施人数／72歳人口	72歳調査実施率
～ 5,000人	10	425 / 490	86.7%
5,001～10,000人	9	665 / 778	85.5%
10,001～30,000人	6	543 / 1,036	52.4%
30,001～人	4	314 / 4,321	7.3%
全体	29	1,947 / 6,625	29.4%

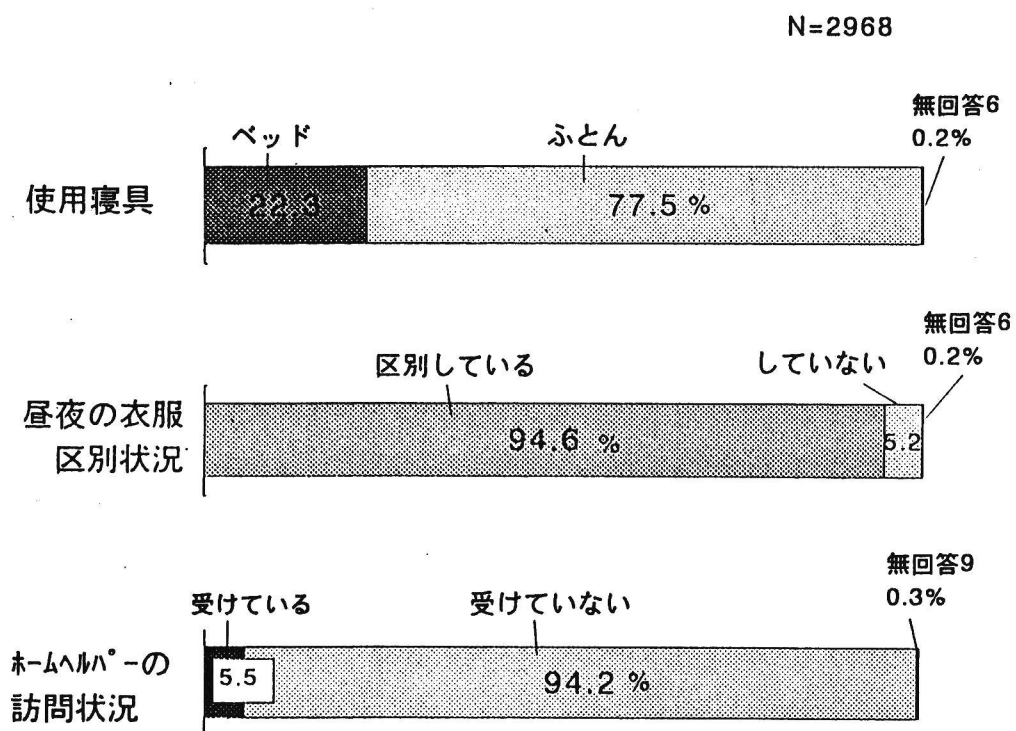
72歳調査実施率

高齢化率別

高齢化率	施設数	調査実施人数／72歳人口	72歳調査実施率
15%未満	2	164 / 3,332	4.9%
15%以上 20%未満	2	207 / 519	39.9%
20%以上 25%未満	12	858 / 1,877	45.7%
25%以上 30%未満	9	450 / 610	73.8%
30%以上	4	268 / 287	93.4%
全体	29	1,947 / 6,625	29.4%

4. 全体集計結果と考察

- ① 使用寝具
- ② 昼夜の衣服の区別状況
- ③ ホームヘルパーの訪問状況



④ 生活場所

自宅で生活している人が94.4%であった。

⑤ 日常生活自立度

- ・生活自立（遠方及び近所の外出が可）が95.1%
- ・準寝たきり（屋内自立及び寝たり起きたり）が2.6%
- ・寝たきり（ベッド中心）が1.5%
- ・寝たきり（座位不可）が0.5%であった。

⑥ 歯みがき指導受診状況と受診場所

義歯の手入れ等も含めた歯みがき指導を受けたことのある人は、40.4%で、今後さらに充実させる必要がある。

またそのうち、79.9%が医療機関、13.3%が健康教育等で、指導を受けている。

⑦ 歯科定期検診受診状況（この1年間に）と受診場所

この1年間に歯科の定期検診を受診した人は、17.0%しかなく、またそのうち、医療機関（施設内検診）では47.1%、集団検診では46.9%であった。

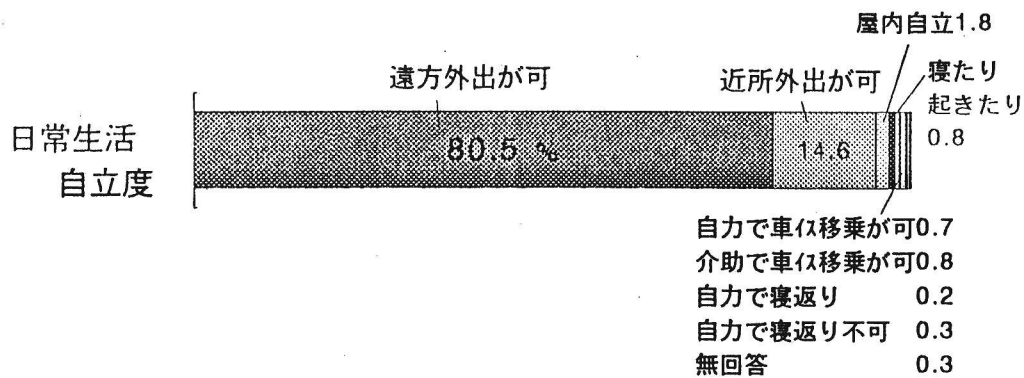
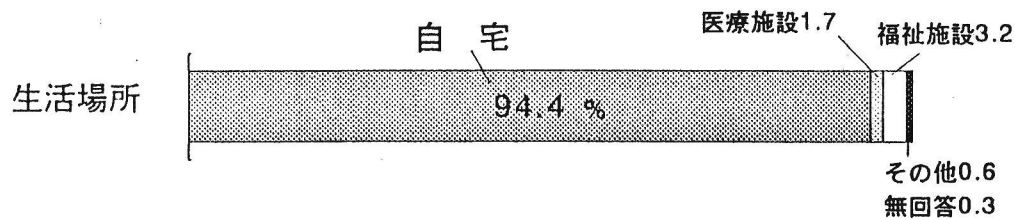
歯科受診の大半は痛み等の自己主訴であるが、人間ドックのように歯科の定期検診を一般化させ、早期発見、早期治療さらに早期指導で対応できるように整備していく必要がある。

⑧ 咀嚼機能満足度

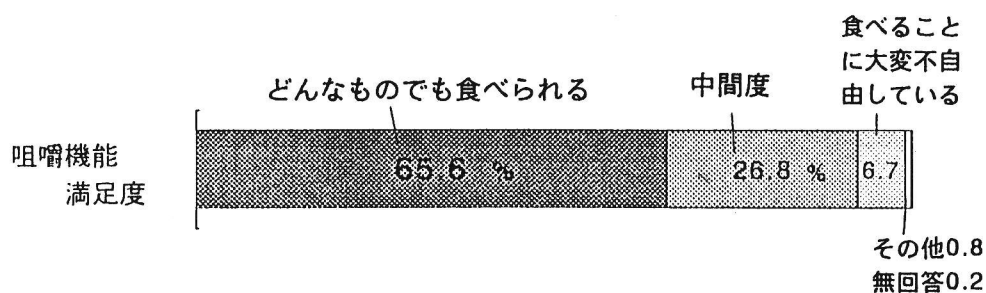
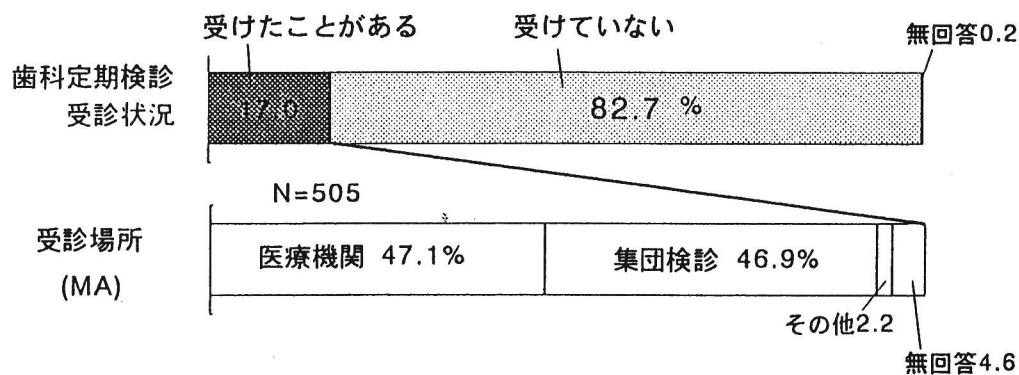
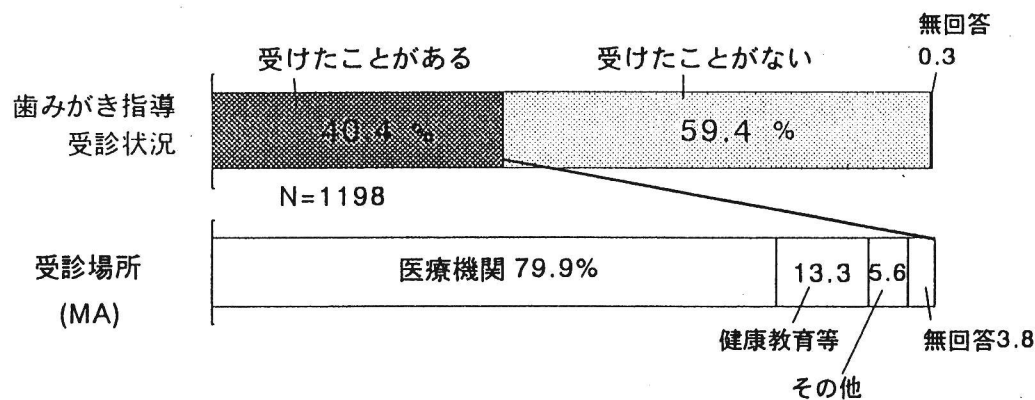
咀嚼に関する満足度であり、実際の咀嚼機能とは誤差が生じていると思われる。

しかし今回は、あくまでも本人の意識、感覚に重きを置き、食生活にどの程度満足しているかを聞き取り調査した。

65.6%の人が「どんなものでも食べられる。」と答えた。



N=2968



⑨ 歯の状況（義歯の状況）

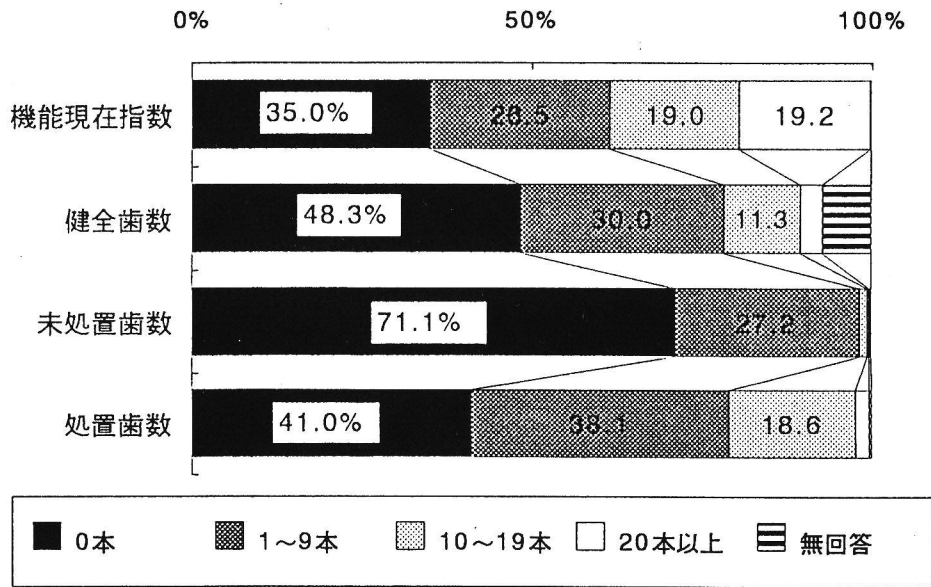
全体の35.0%が機能現在歯数が0本であり、1人平均では8.7本であった。

また20本以上機能現在歯を有する人は19.2%で、全体で571人であった。これらの人のこれからの生活状況、疾患状態等を今後追跡調査していく必要があると考える。

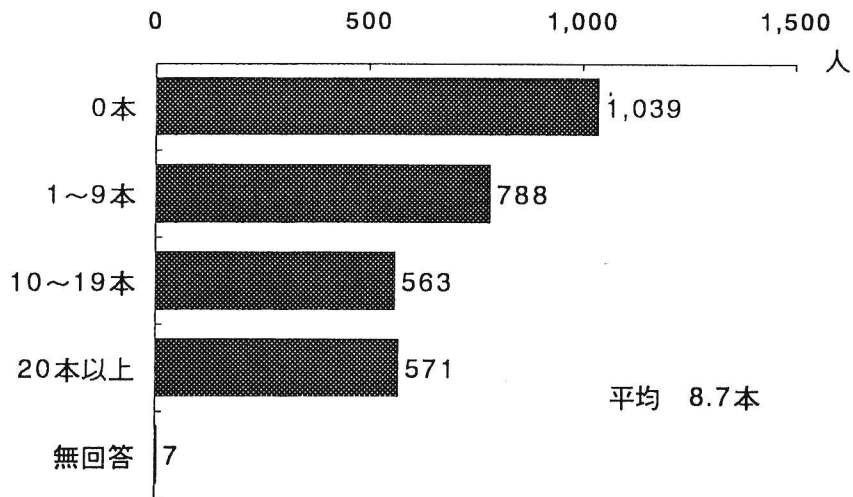
義歯の使用状況は、機能現在歯数が0～9本で義歯なし（食事の時未使用）の人は101人（3.4%）、機能現在歯数が0～9本で義歯あり（食事の時使用）の人は1,731人（58.3%）であった。

歯の状況

N=2968



機能現在歯数



⑩ 歯ブラシ以外の清掃用器具の使用状況

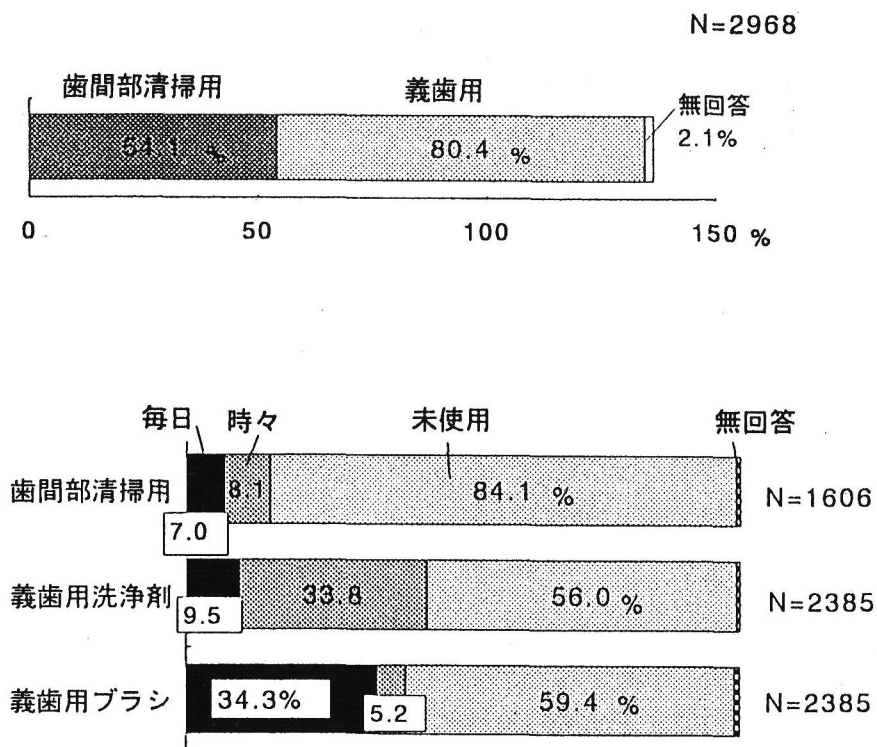
【歯間部清掃用器具】

歯間部清掃用器具使用対象者（N = 1,606）のうち、歯間ブラシ等を毎日及び時々使用している者は15.1%しかなく、今後の歯科保健指導を通じて普及、定着させていく必要がある。

【義歯用洗浄剤、義歯用ブラシ】

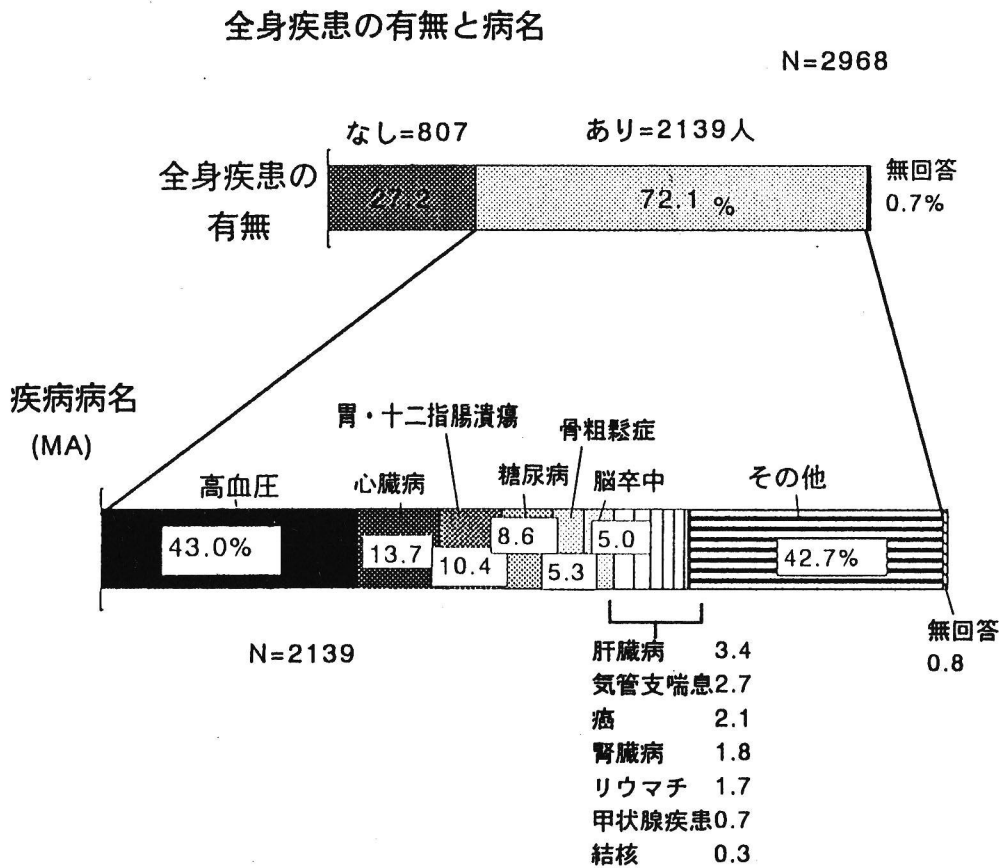
義歯使用者（N = 2,385）のうち、義歯用洗浄剤及び、義歯用ブラシの使用者は毎日、時々を合わせて、約40%前後であり、今後さらに普及、定着させていく必要がある。

歯ブラシ以外の清掃用器具の使用対象者(MA)



① 全身疾患の有無と病名

主に調査対象者から問診したものであり、実際とは誤差が生じていると思われるが、本人がどのような疾患と向き合って生活しているかがうかがえる。

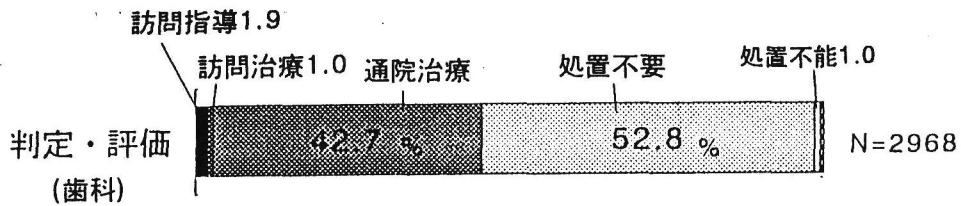


⑫ 判定・評価（歯科）と処置内容

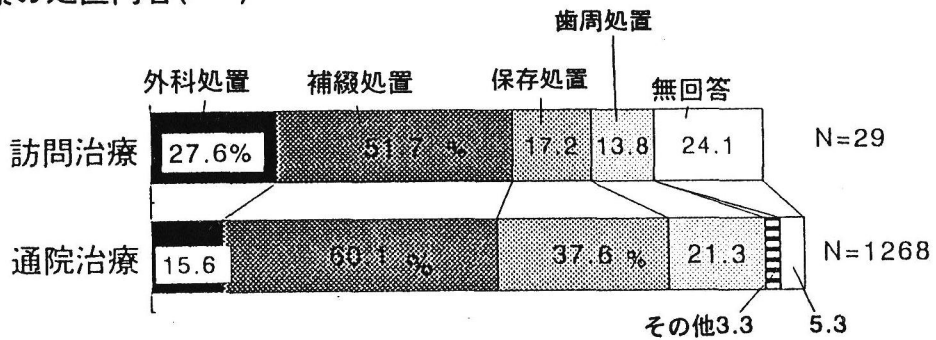
口腔内診査の結果、処置不要と判定・評価されたのは52.8%であり、それ以外は何らかの歯科サービスが必要とされている。

治療内容は訪問治療、通院治療とも補綴処置（義歯関係等）が多い。

また、訪問治療においても、抜歯等の外科処置も27.6%必要とされており、一般医科との連携も重要となってくる。



治療の処置内容(MA)



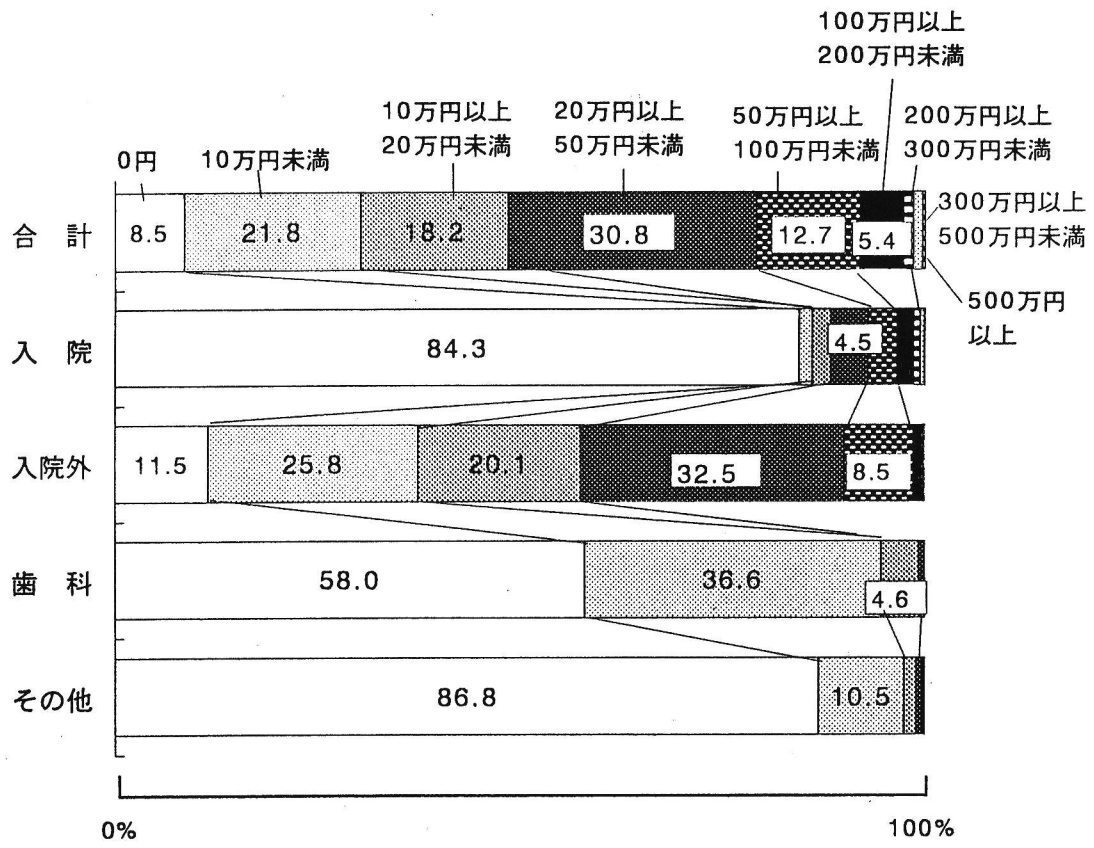
⑬ 年間総医療費（平成6年度）－入院、入院外、歯科、その他－
全体（2,968人）の平成6年度年間総医療費（合計）の平均は、
401,167円であった。

総医療費別の人数分布は、200,000円以下が、全体の48.5%、
1,000,000円以上が8.1%であり、また最高医療費は21,084,010円
であった。

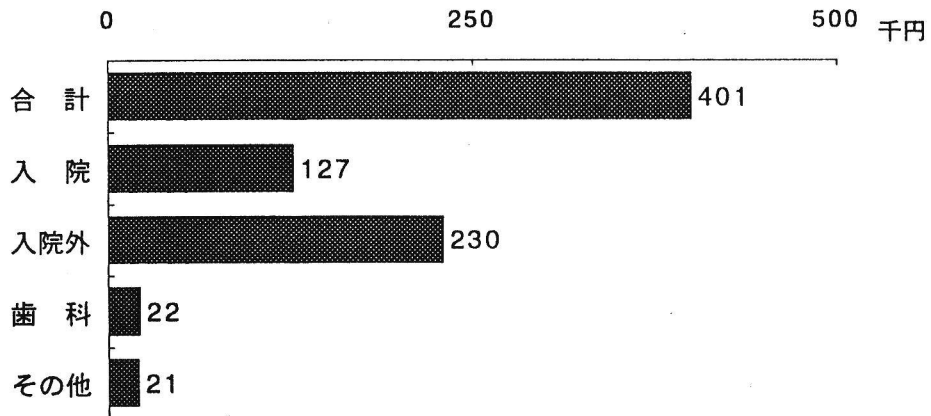
年間の歯科の医療費においては、0円の人が、全体の58.0%に
及び、100,000円未満で94.6%を占める。（P.23 参）

平成6年度年間総医療費

N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

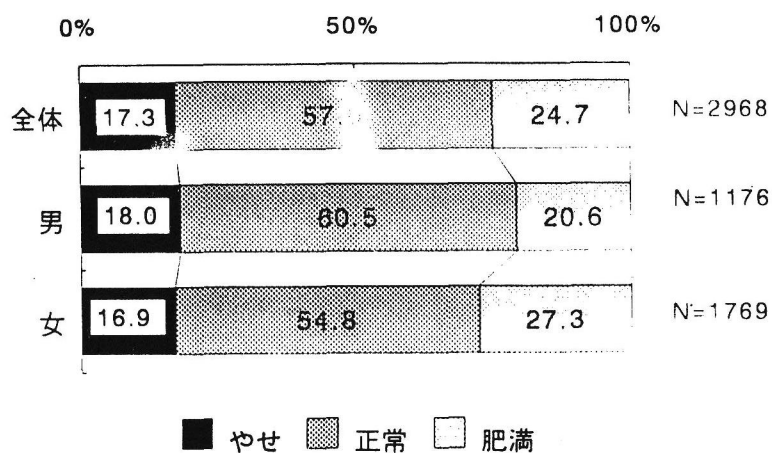


⑭ B. M. I. (体格指数)

B. M. I. (Body mass index) は、肥満を測定する方法の1つで、〔体重(kg)／身長(cm)の2乗〕×1,000により算出され、20以上25未満で正常体重と判定する。

女性の方が肥満傾向が多かった。

B・M・I



5. クロス集計結果と考察

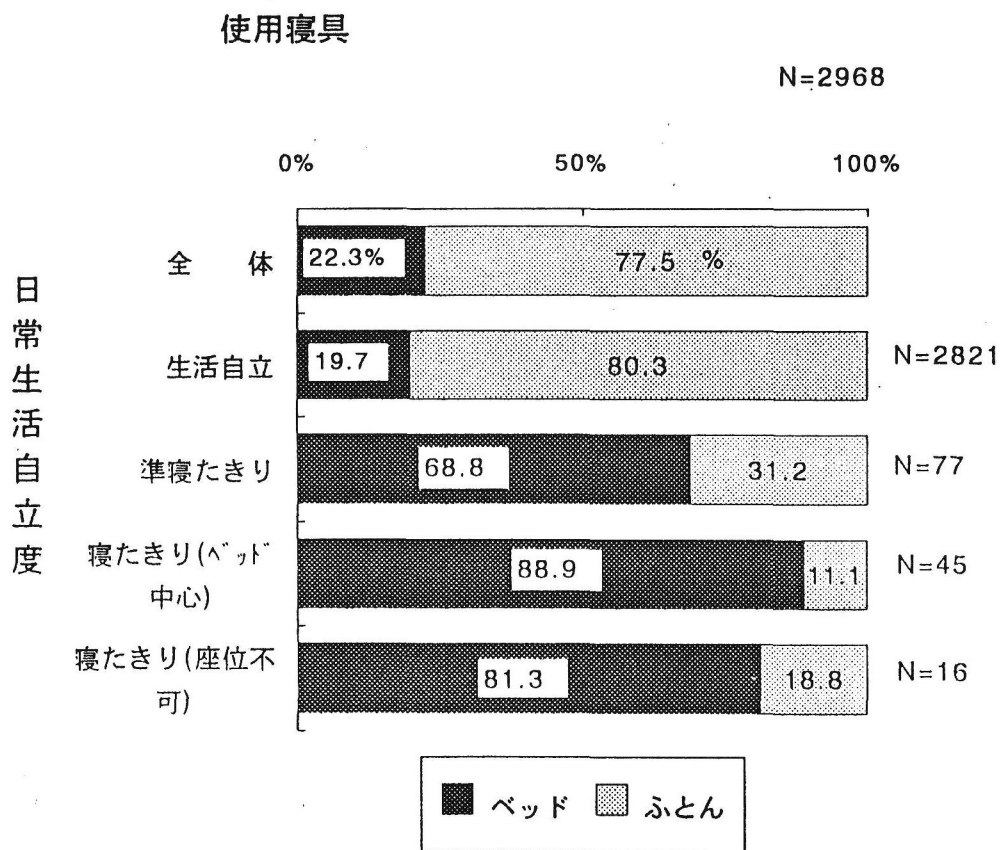
① 使用寝具

①-1 日常生活自立度 との関係

生活自立している人のベット使用の割合は低い（19.7%）
寝たきりの人では、全体で85.0%以上がベットを使用している。

日常生活自立度とベット使用は相関が認められる。

ふとんよりベットの方が、介護に適している認識が普及していると思われる。



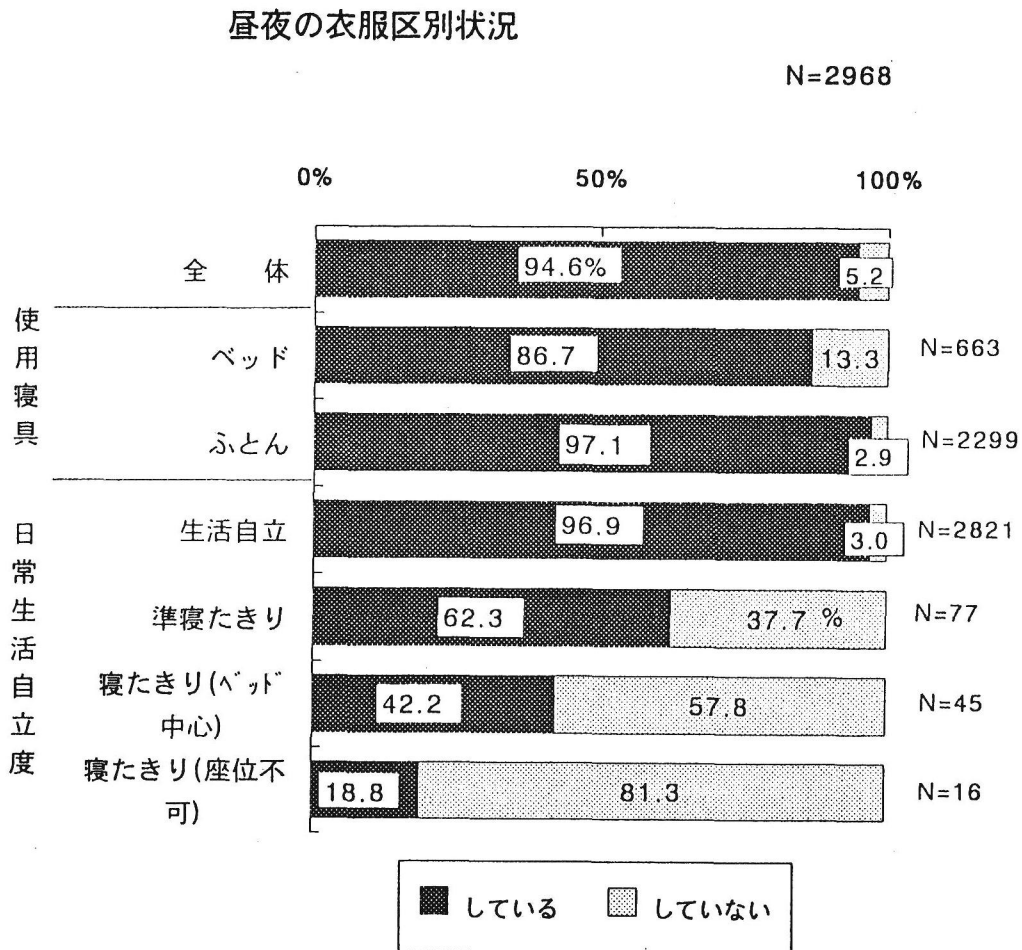
② 昼夜の衣服の区別状況

②-1 使用寝具 との関係

現状ではベッドを使用している人は、昼夜の衣服の区別をしていない割合が高い。

②-2 日常生活自立度 との関係

日常生活自立度と昼夜の衣服の区別状況とは相関性がみられる。

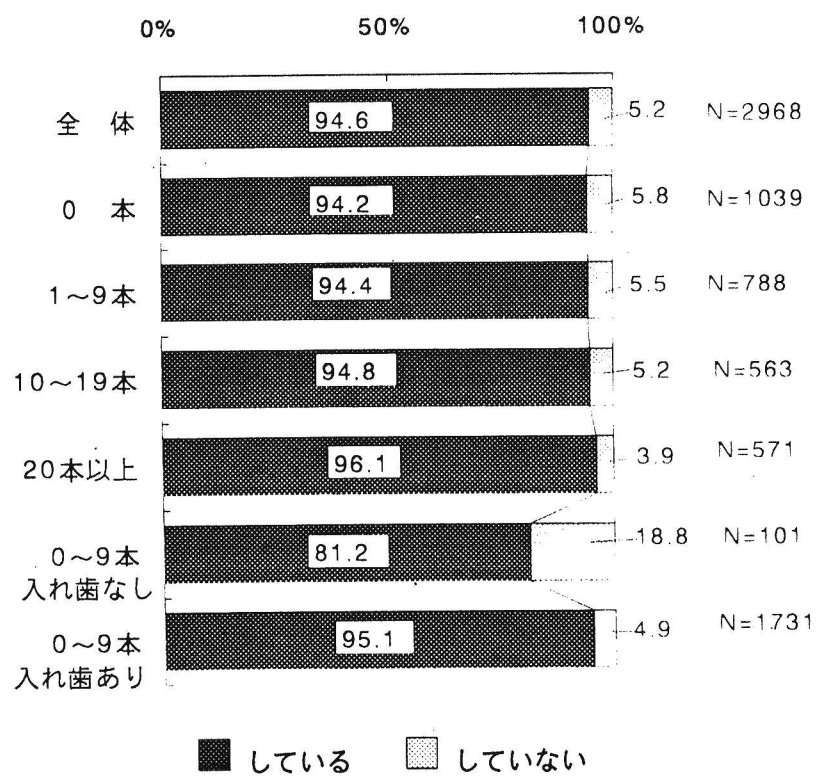


② - 3 歯の状況（義歯の状況） との関係

機能現在歯数が20本以上ある人は、区別をしている割合が高く、機能現在歯数が0～9本で、義歯なしの人は低い。

日常生活自立度の相関と似ている。

昼夜の衣服区別



③ ホームヘルパーの訪問状況

③-1 使用寝具 との関係

③-2 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

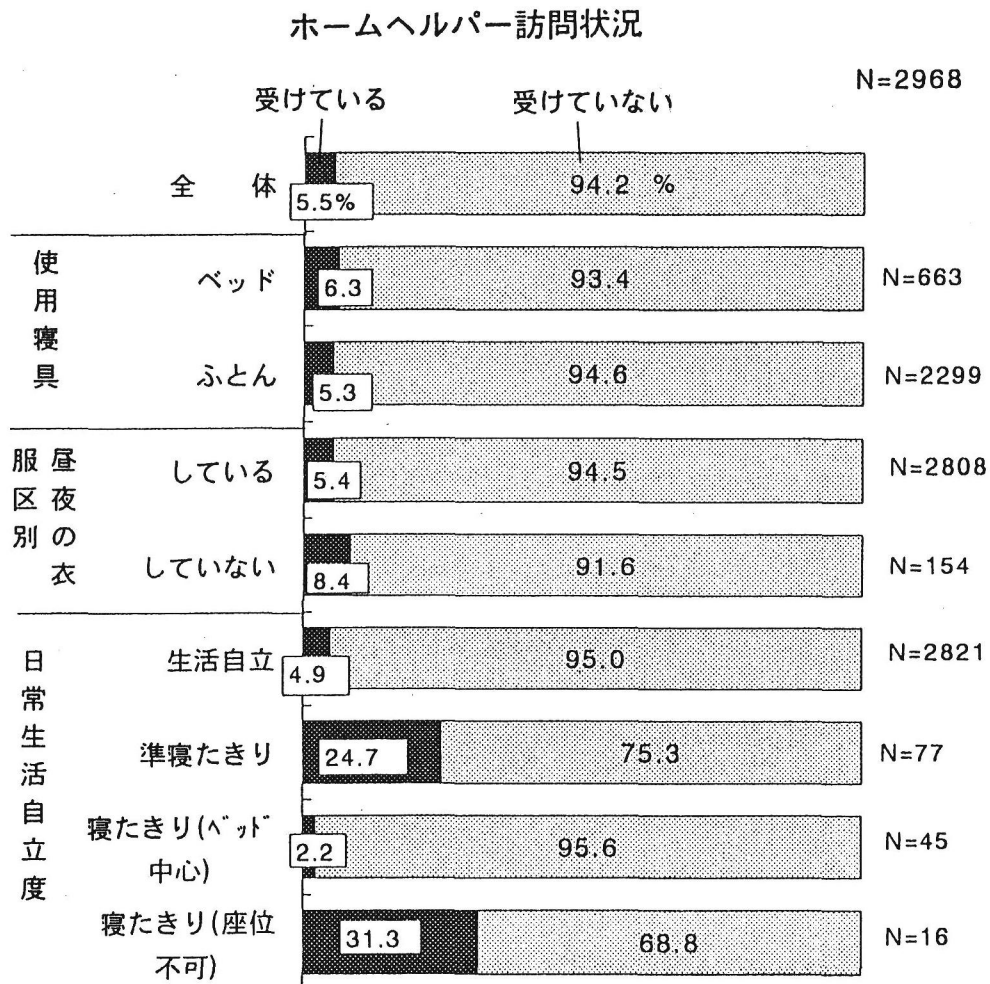
ベット使用及び、昼夜の衣服の区別をしていない人は、生活自立度が低い割合が多く（①-1、②-2参）、よってホームヘルパーの訪問を受けている割合が高いと考えられる。

③-3 日常生活自立度 との関係

日常生活自立度と、ホームヘルパーの訪問状況とは相関が認められる。

寝たきり（ベッド中心）の人は、施設入所者が多かったため、ホームヘルパーの訪問は、必要としなかった。

（P.30 参）



④ 生活場所

④－１ 人口規模別 との関係

④－２ 高齢化率別 との関係

今回の調査では、人口規模が大きくまた高齢化率が低い地域では自宅以外で生活している人が多く調査対象者となっており、実態とは誤差が生じていると思われる。

しかし、傾向として都市部ほど在宅介護の率が低いと考えられる。

④－３ 使用寝具 との関係

④－４ 昼夜の衣服区別の状況 との関係

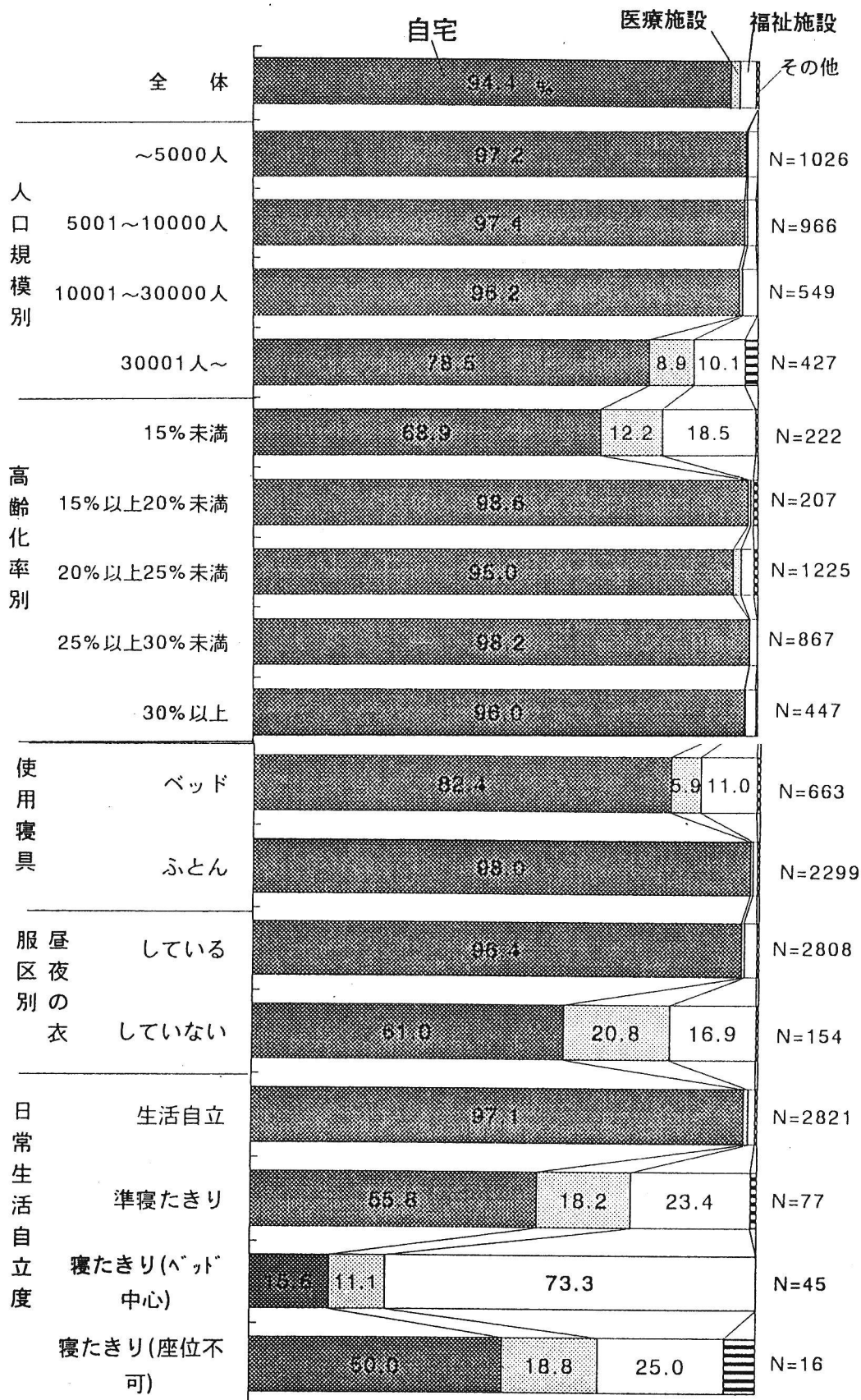
ベット使用及び、昼夜の衣服の区別をしていない人は、生活自立度が低い割合が多く（①－１、②－２参）、よって医療施設や福祉施設に入っている人が多いと考えられる。

④－５ 日常生活自立度 との関係

生活自立ができている人は自宅生活が多いが、寝たきり（ベッド中心）の人は福祉施設、寝たきり（座位不可）の人は医療施設の割合が高くなっている。（⑤－５参）

生活場所

N=2968



⑤ 日常生活自立度

⑤－1 人口規模別 との関係

⑤－2 高齢化率別 との関係

今回の調査では、人口規模が大きくまた高齢化率が低い地域では生活自立度が低い割合が多くなっているが、調査実施率が低いため、実態とは多少誤差が生じていると思われる。

(④－1、④－2、P.13 参)

⑤－3 使用寝具 との関係

⑤－4 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

ふとんを使用している人及び、昼夜の衣服の区別をしている人は、生活自立の割合が高い。(①－1、②－2 参)

⑤－5 生活場所 との関係 (P.33 参)

自宅で生活している人は、生活自立の割合が高く、医療施設、福祉施設では寝たきりの割合が高い。(④－5 参)

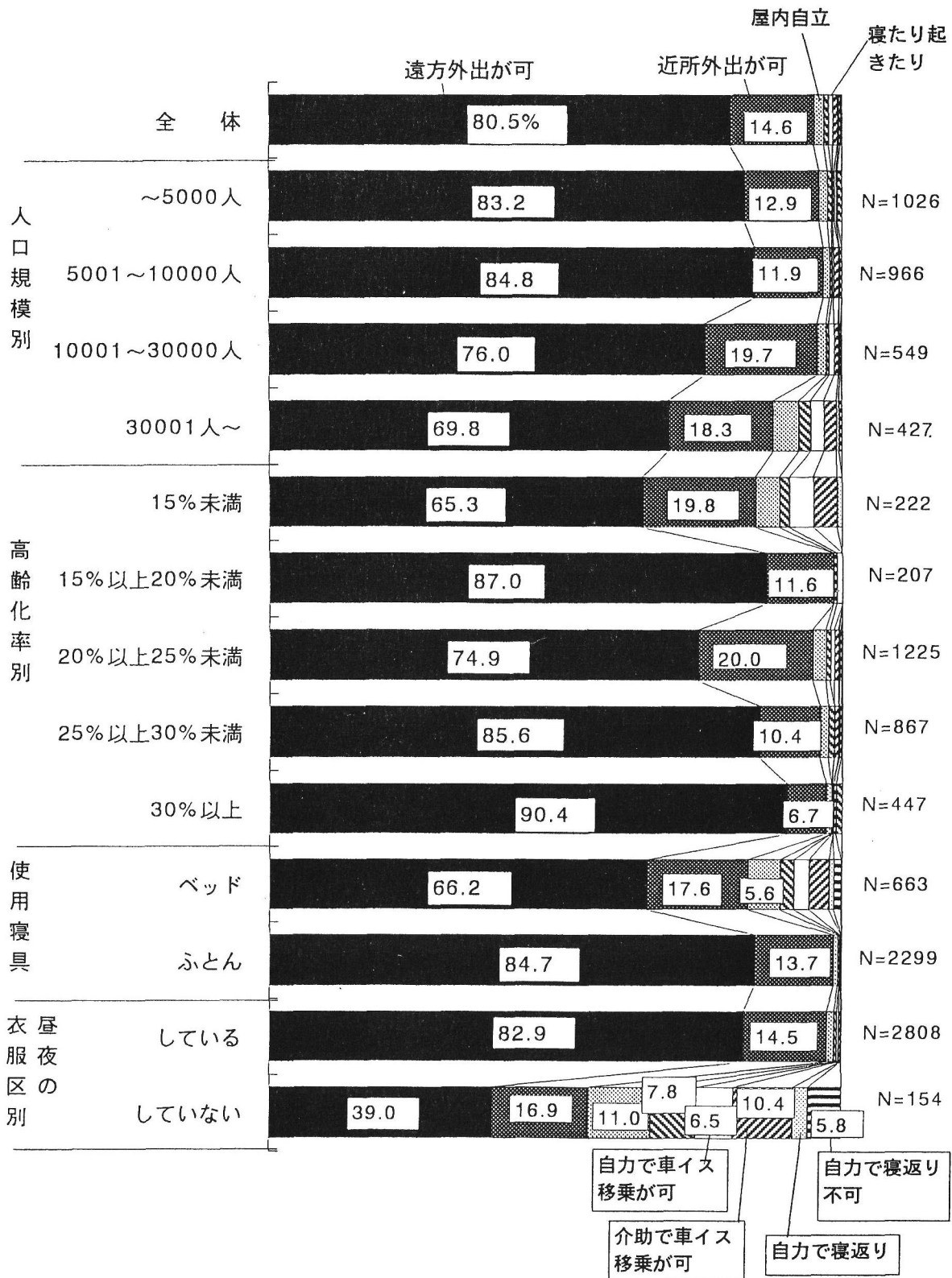
⑤－6 機能現在歯数 (義歯の状況) との関係

機能現在歯数と日常生活自立度とは相関が認められた。

特に、0～9本で義歯なしの人は、日常生活自立度は低い。

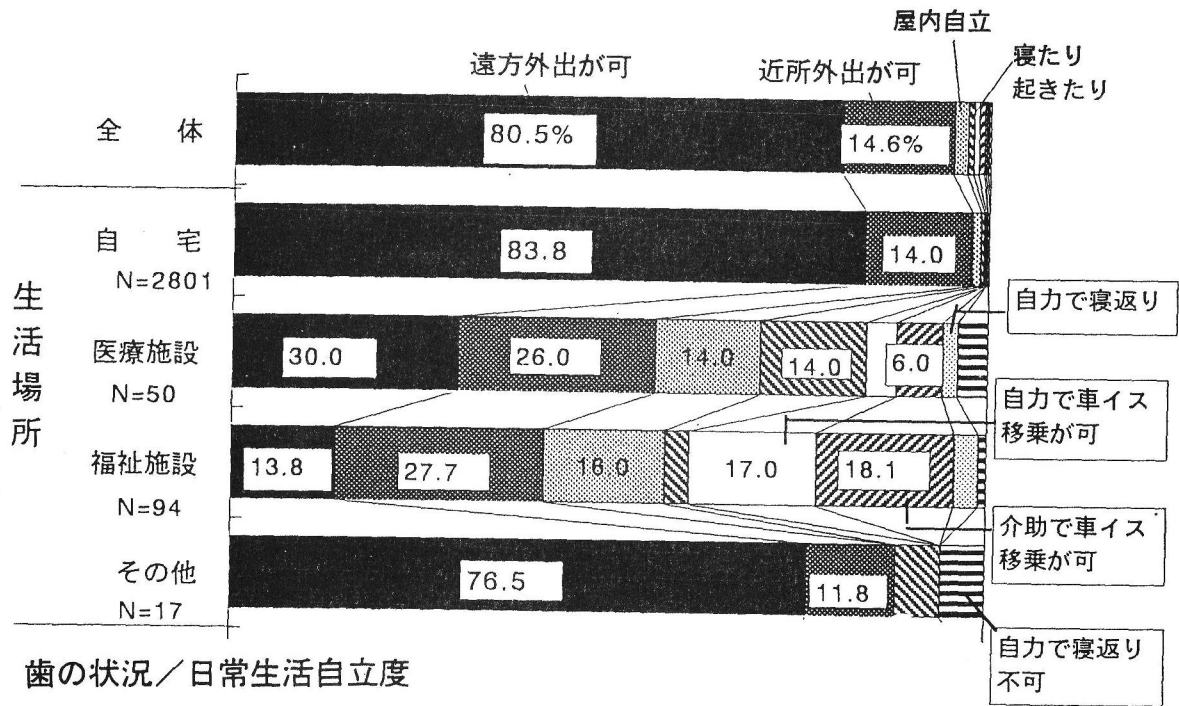
日常生活自立度

N=2968

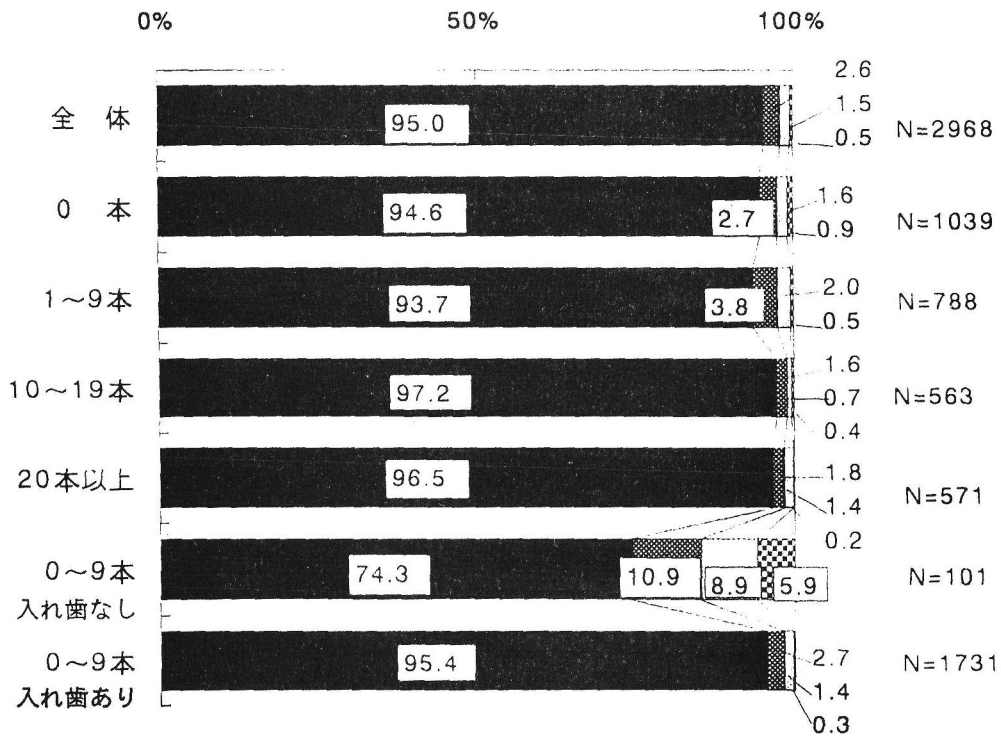


日常生活自立度

N=2968



■ 生活自立 ■ 準寝たきり □ ベッド中心 ■ 座位不可



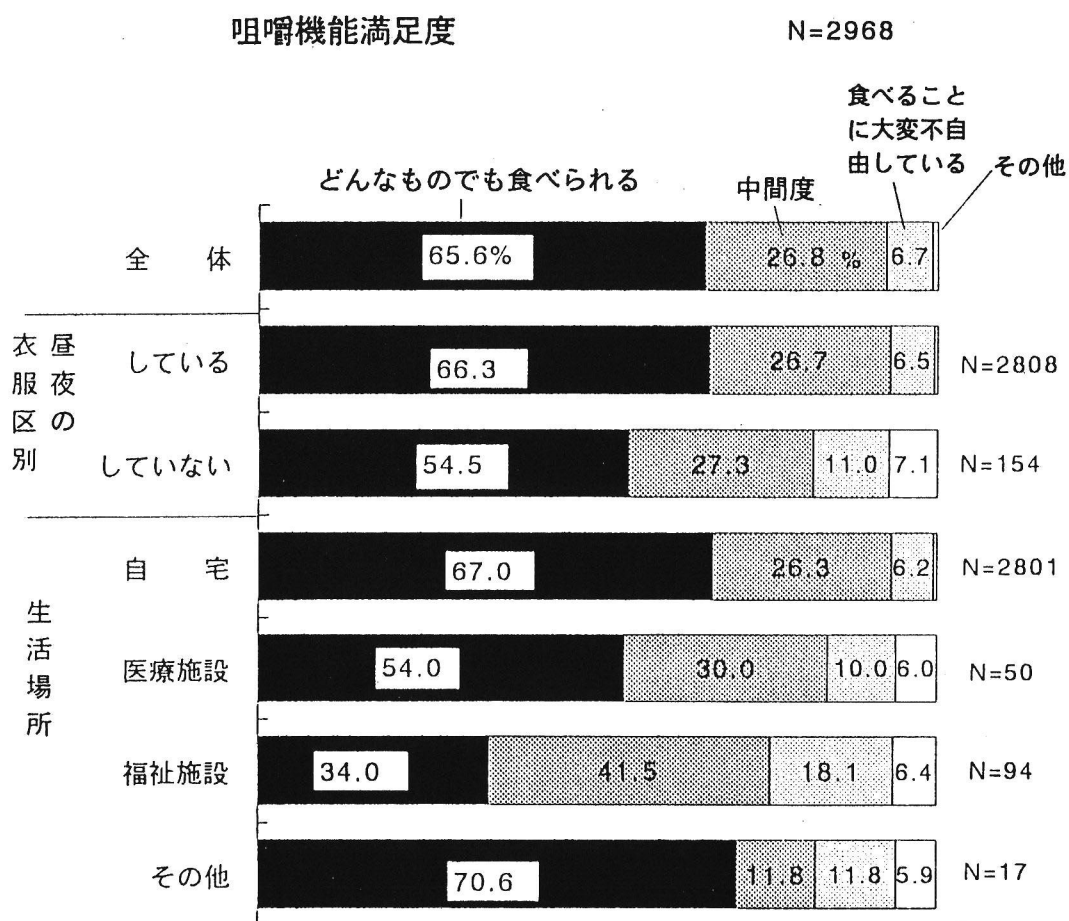
⑥ 咀嚼機能満足度

⑥-1 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

⑥-2 生活場所 との関係

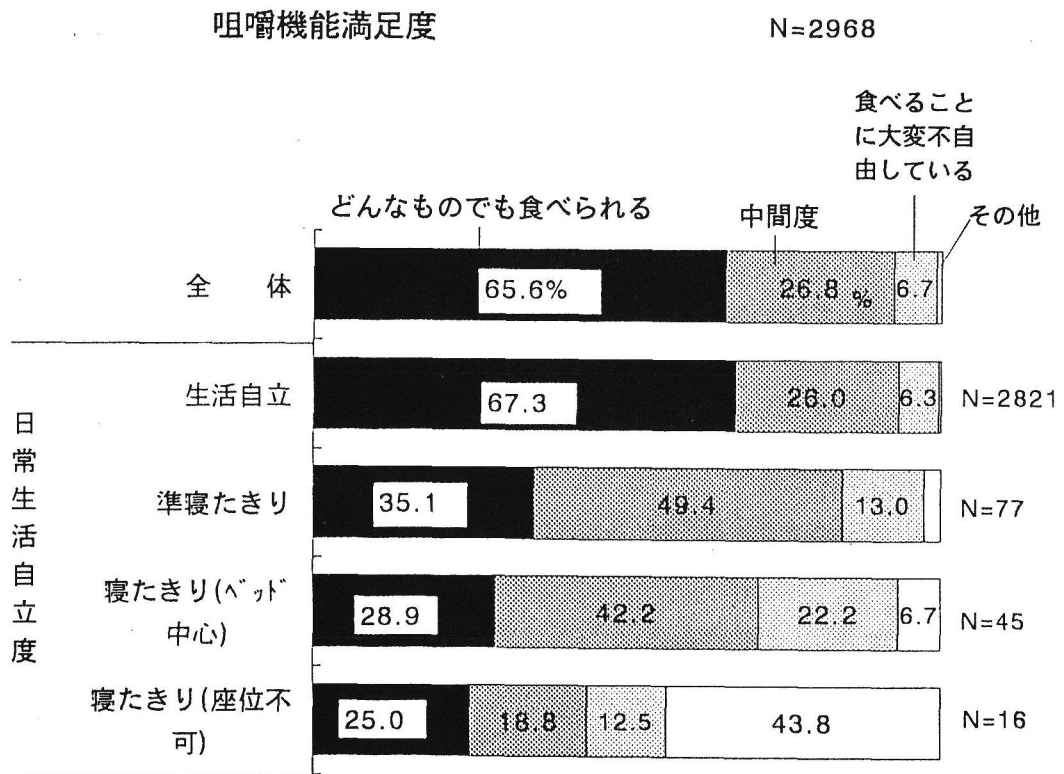
昼夜の衣服の区別をしていない人及び、医療施設、福祉施設に入っている人は、「どんなものでも食べられる」（咀嚼機能満足度が高い）割合は低い。

特に歯科医療が提供されにくい福祉施設では今後の大きな問題点であり、また、その状態を考慮した食事内容も検討される必要がある。



⑥-3 日常生活自立度 との関係

咀嚼機能満足度と日常生活自立度とは明らかに相関が認められ、豊かな生活の質を確保していく上でも、歯科の役割は重要と思われる。(⑥-4 参)



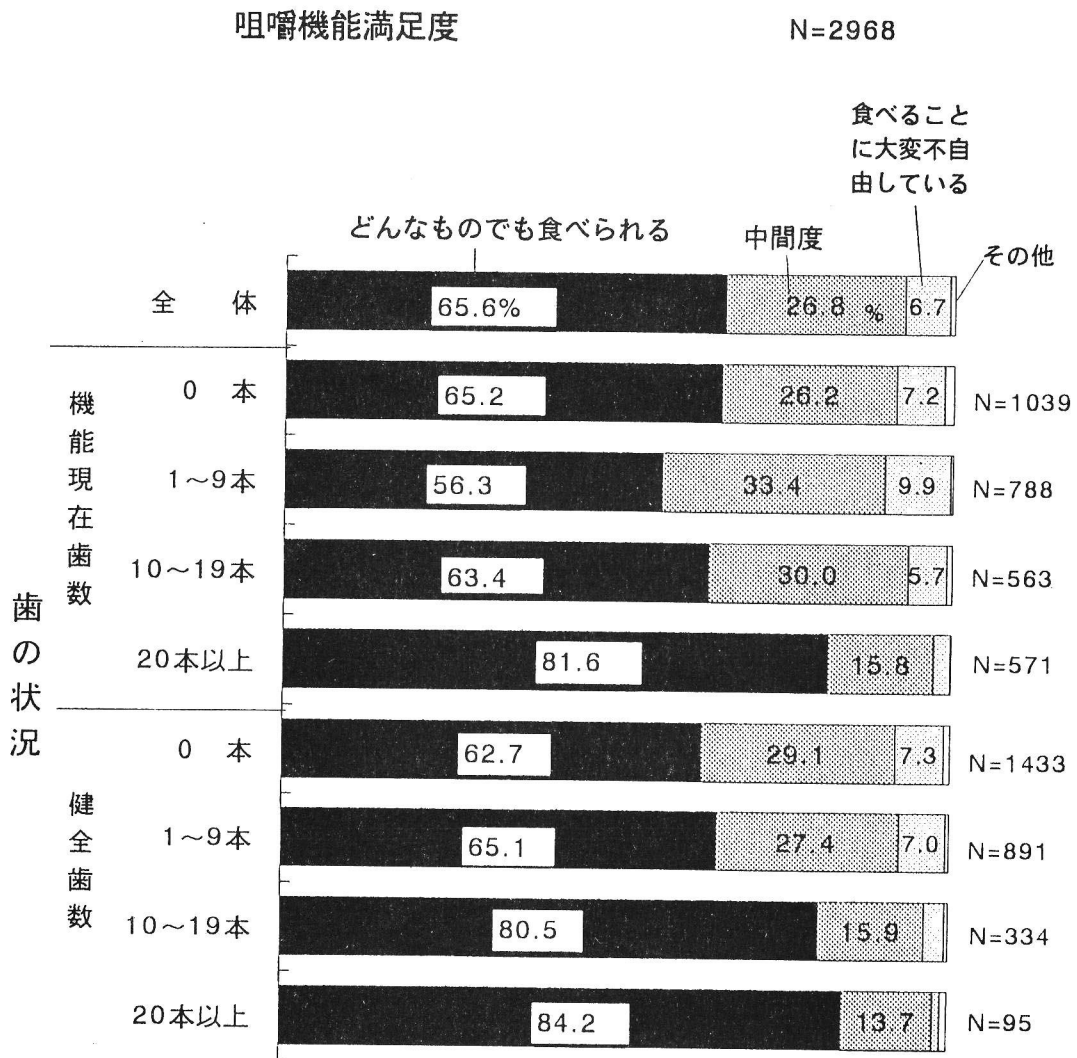
⑥ - 4 歯の状況（義歯の状況） との関係

【機能現在歯数と健全歯数】

しっかり咬合できるだけの歯の本数と、咀嚼機能満足度とは、相関が認められた。

咀嚼機能満足度を確実に高める為には、機能現在歯数を多くする必要があり、その為の一生を通じての歯科口腔保健の充実が不可欠と思われる。

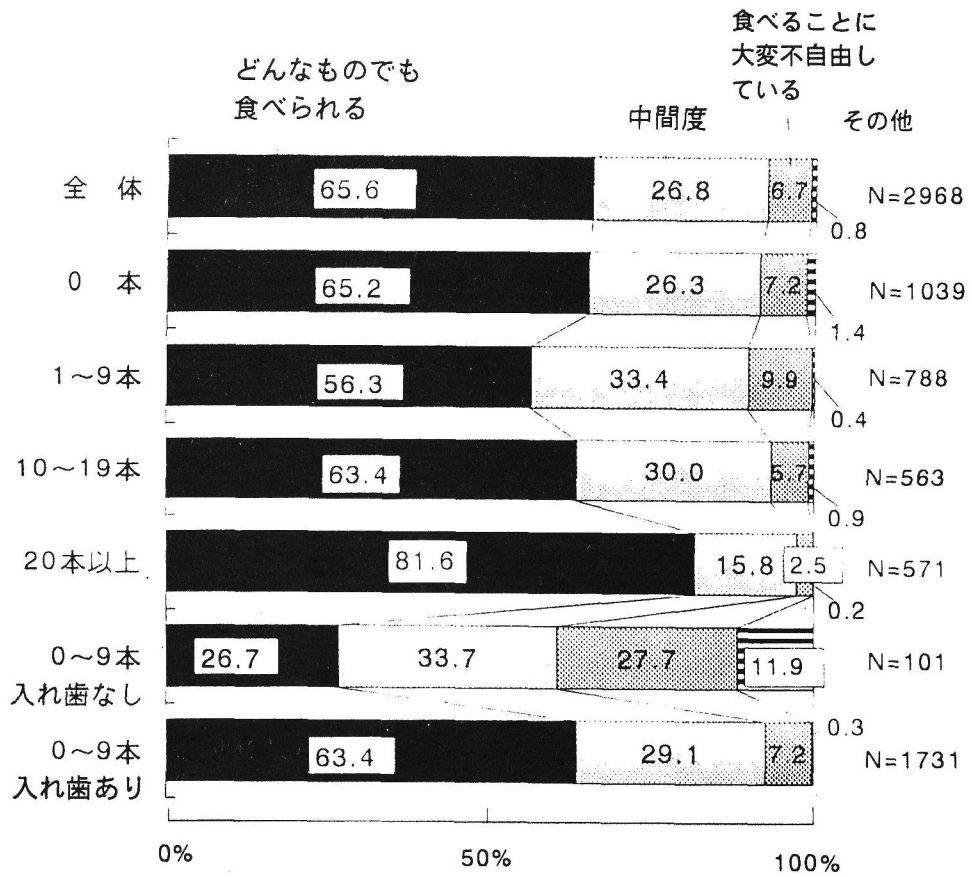
全く治療を必要としない健全歯が多ければ、さらに満足度は高くなった。



【義歯の状況】

機能現在歯数が0～9本で義歯なしの人は、咀嚼機能満足度は、低かった。

歯の状況／咀嚼機能満足度



⑦ 歯の状況（P.39、40参）

（A）【機能現在歯数】

（A）- 1 ホームヘルパー訪問状況 との関係

ホームヘルパーの訪問を受けている人は、日常生活自立の割合が低く、歯が少ない傾向にある。（③-3、⑤-6参）

（A）- 2 日常生活自立度 との関係

日常生活自立度と機能現在歯数とは相関が認められ、生活自立している人では多く歯を持っている人の割合が高い。

（⑤-6、⑥-3参）

（A）- 3 歯みがき指導受診状況 との関係

歯みがき指導（義歯の手入れも含む）を受けた人ほど、機能現在歯数を多く持つ人の割合が高く、口腔衛生指導をさらに充実させていく必要がある。

（A）- 4 B. M. I.（体格指数） との関係

やせ傾向の人は、平均機能現在歯数が少なかった。

（A）- 5 性別 との関係

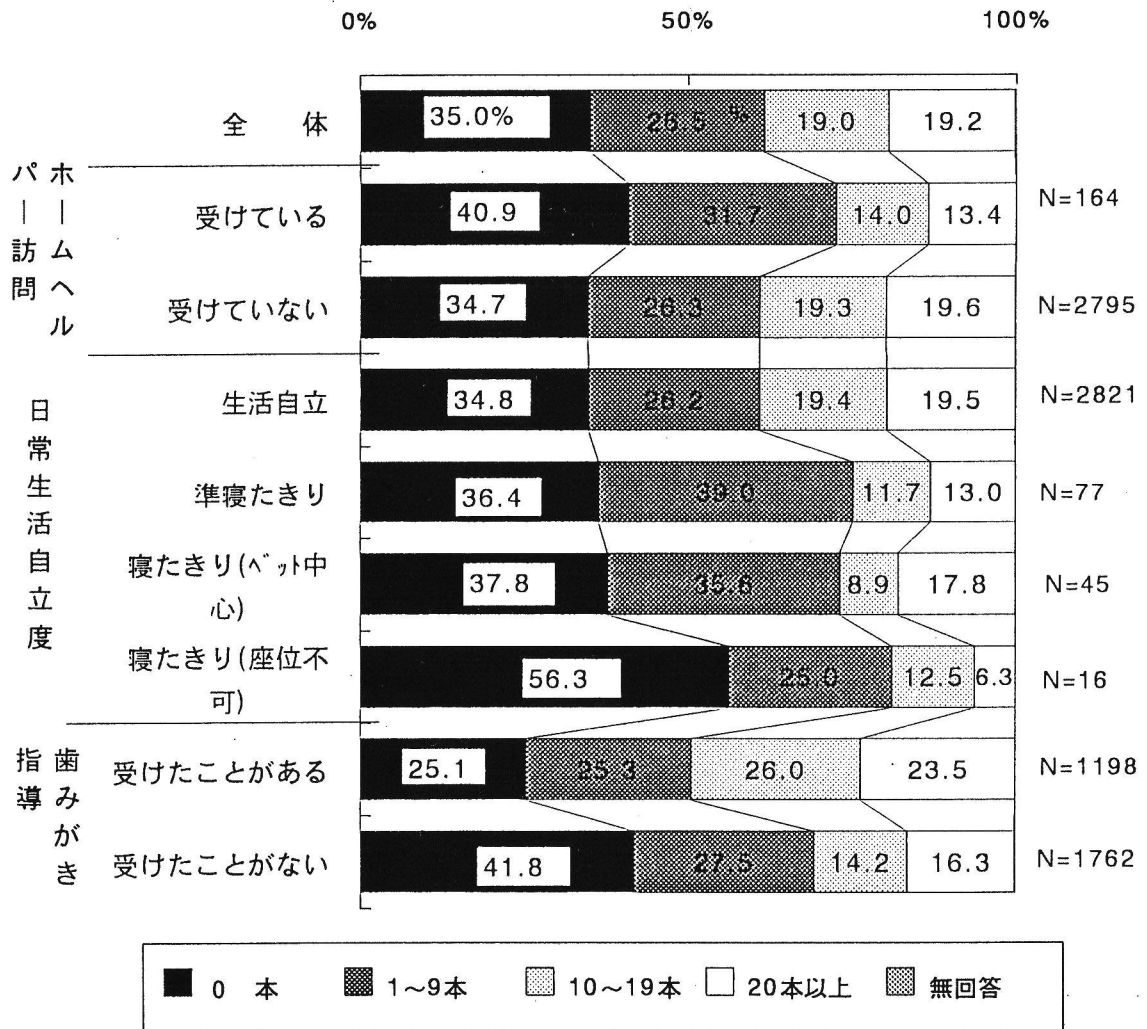
男性の方が、平均機能現在歯数が多かった。

（A）- 6 生活場所 との関係

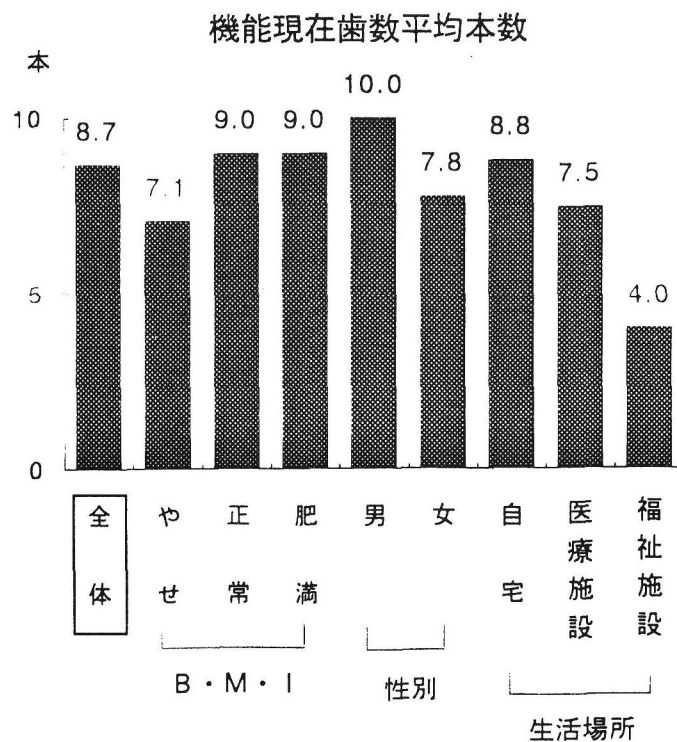
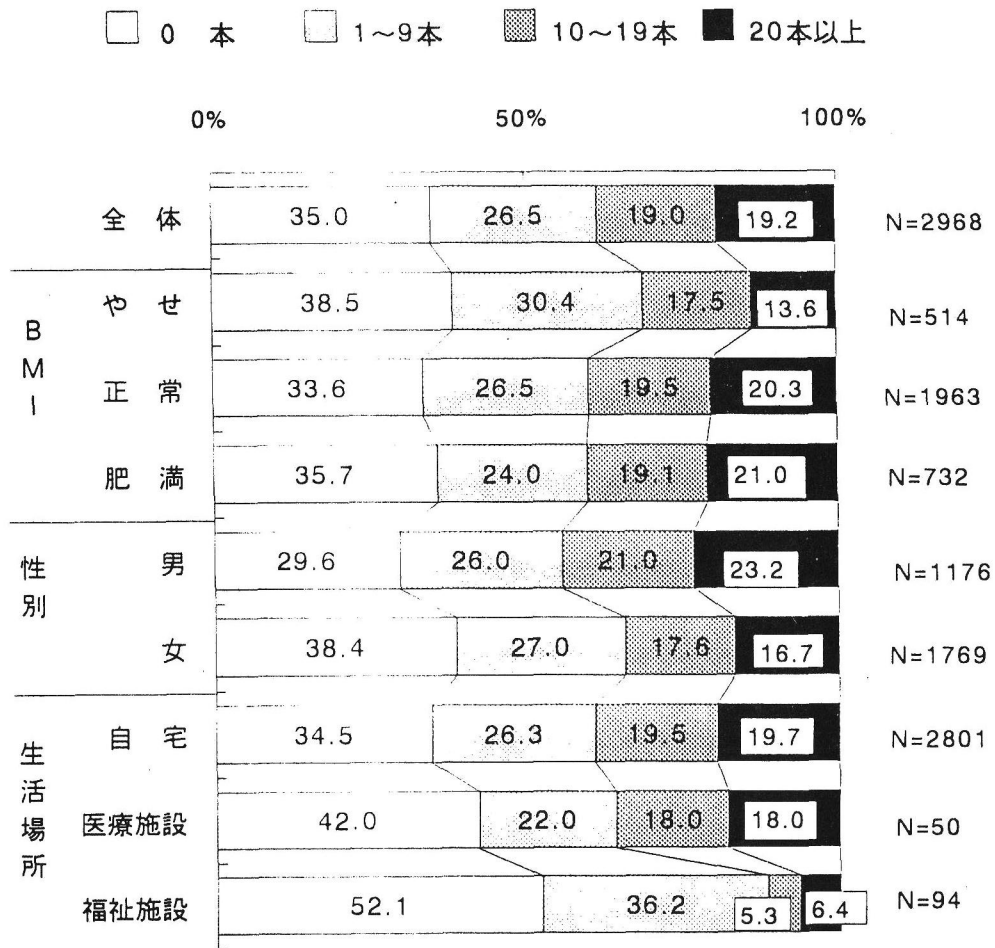
福祉施設に入所している人は、平均機能現在歯数が少なかった。

歯の状況（機能現在歯数）

N=2968



BMI・性別・生活場所／機能現在歯数



(B) 【義歯の状況】

(B)－1 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

機能現在歯数が0～9本で、義歯なしの人は区別していない割合が高い。

(B)－2 生活場所 との関係

福祉施設では、機能現在歯数が0～9本で義歯なしの人が20%近くあった。

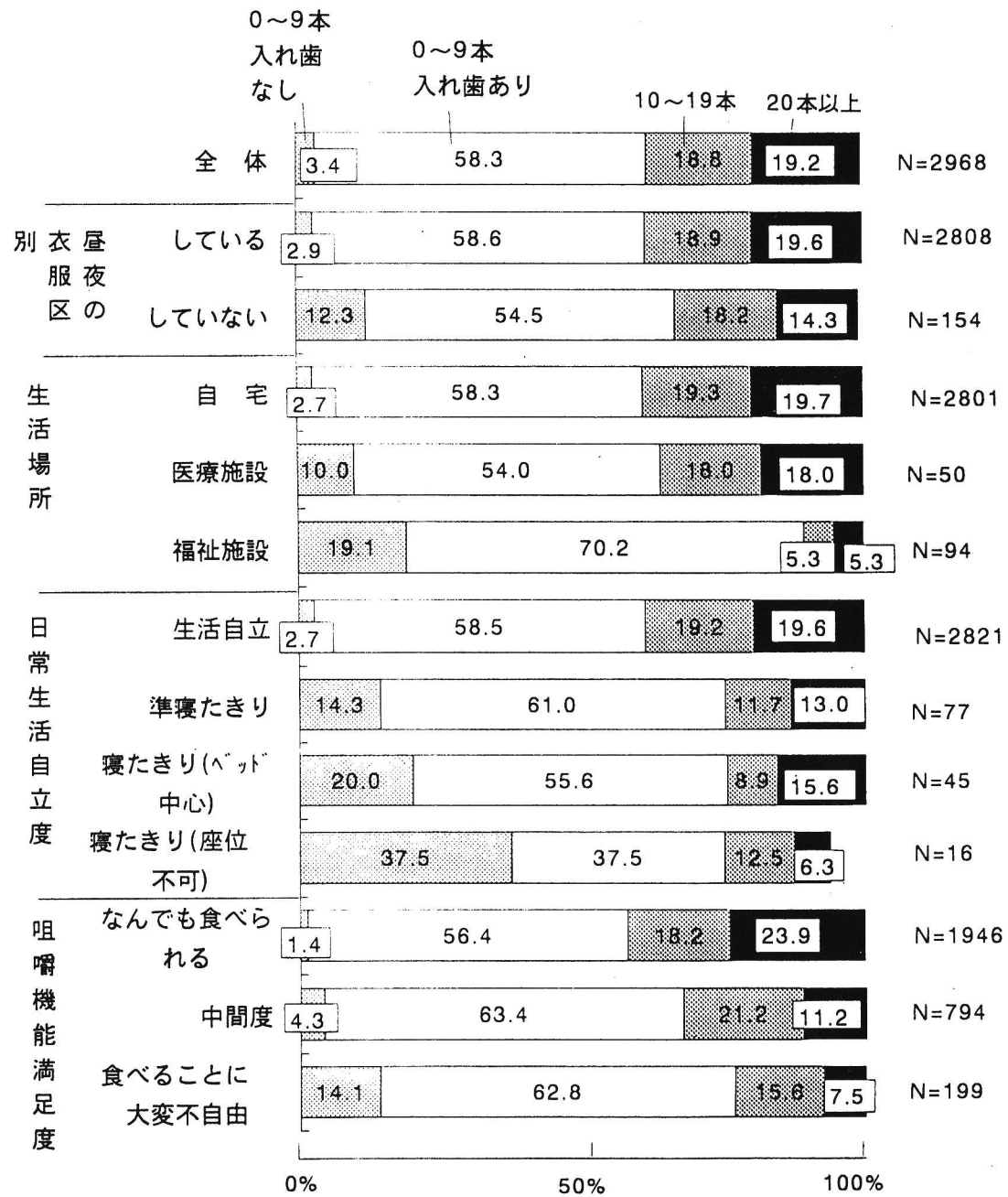
(B)－3 日常生活自立度 との関係

日常生活自立度の低い人は、機能現在歯数が0～9本で義歯なしの人の割合が高い。

(B)－4 咀嚼機能満足度 との関係

食べることに大変不自由している人で、機能現在歯数が20本以上ある人の割合は低い。

昼夜の衣服区別・生活場所・日常生活自立度・咀嚼機能満足度／歯の状況



⑧ 全身疾患

(A) 【全身疾患の有無】

(A)-1 日常生活自立度 との関係

日常生活自立度が低下するほど、全身疾患を有する割合が高くなる。

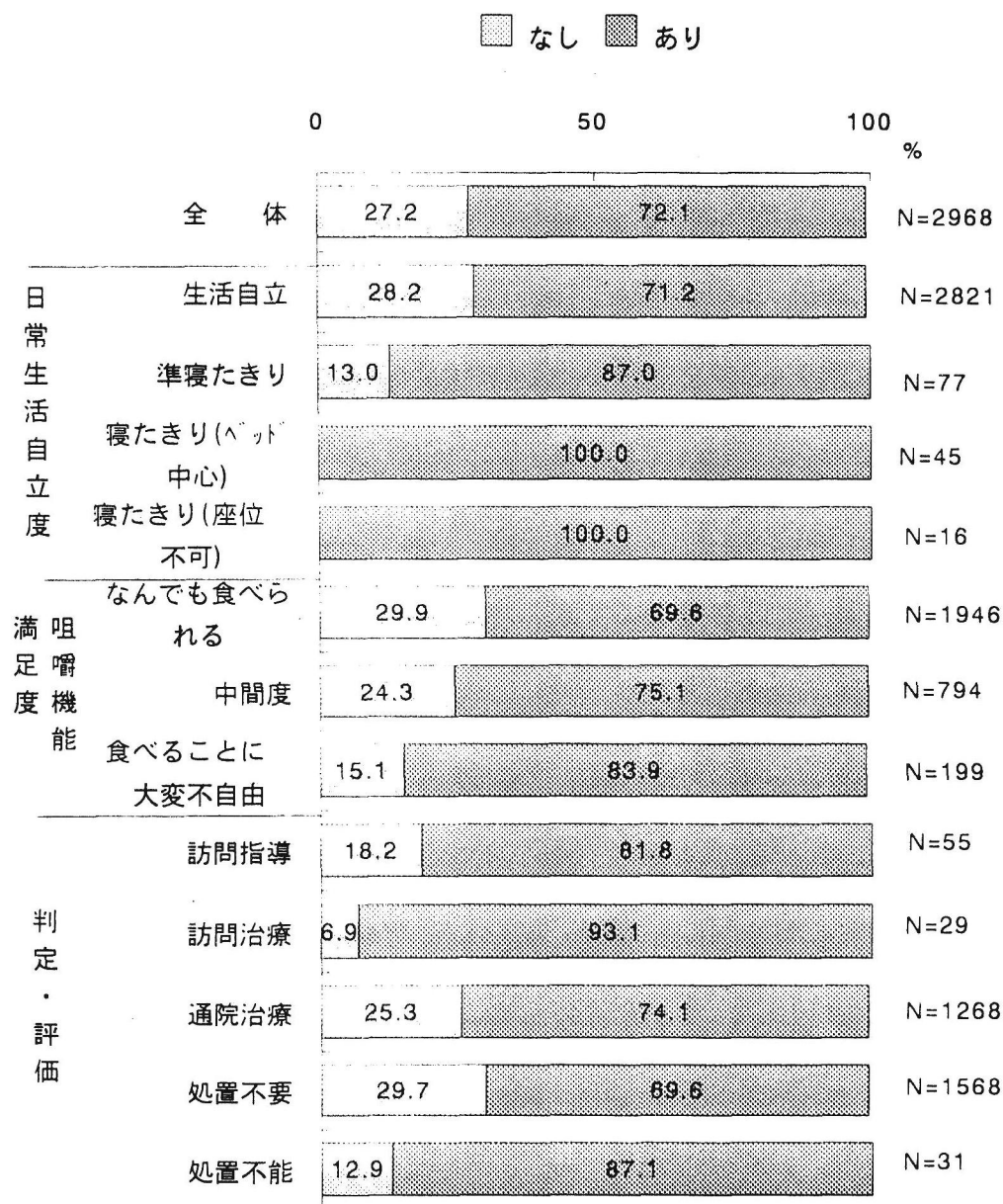
(A)-2 咀嚼機能満足度 との関係

咀嚼機能満足度が低いほど全身疾患を有する割合が高くなる。

(A)-3 判定・評価（歯科） との関係

訪問治療及び、処置不能の人は、全身疾患を有する割合が高く、特に訪問治療の場合、一般医科との連携が必要となってくる。

日常生活自立度・咀嚼機能満足度・判定・評価／全身疾患の有無



(B) 【脳卒中】

(B)-1 使用寝具 との関係

脳卒中では、ベッドの使用割合は他の疾病に比べて2倍以上あり、介護及びリハビリ等を考慮されていると思われる。

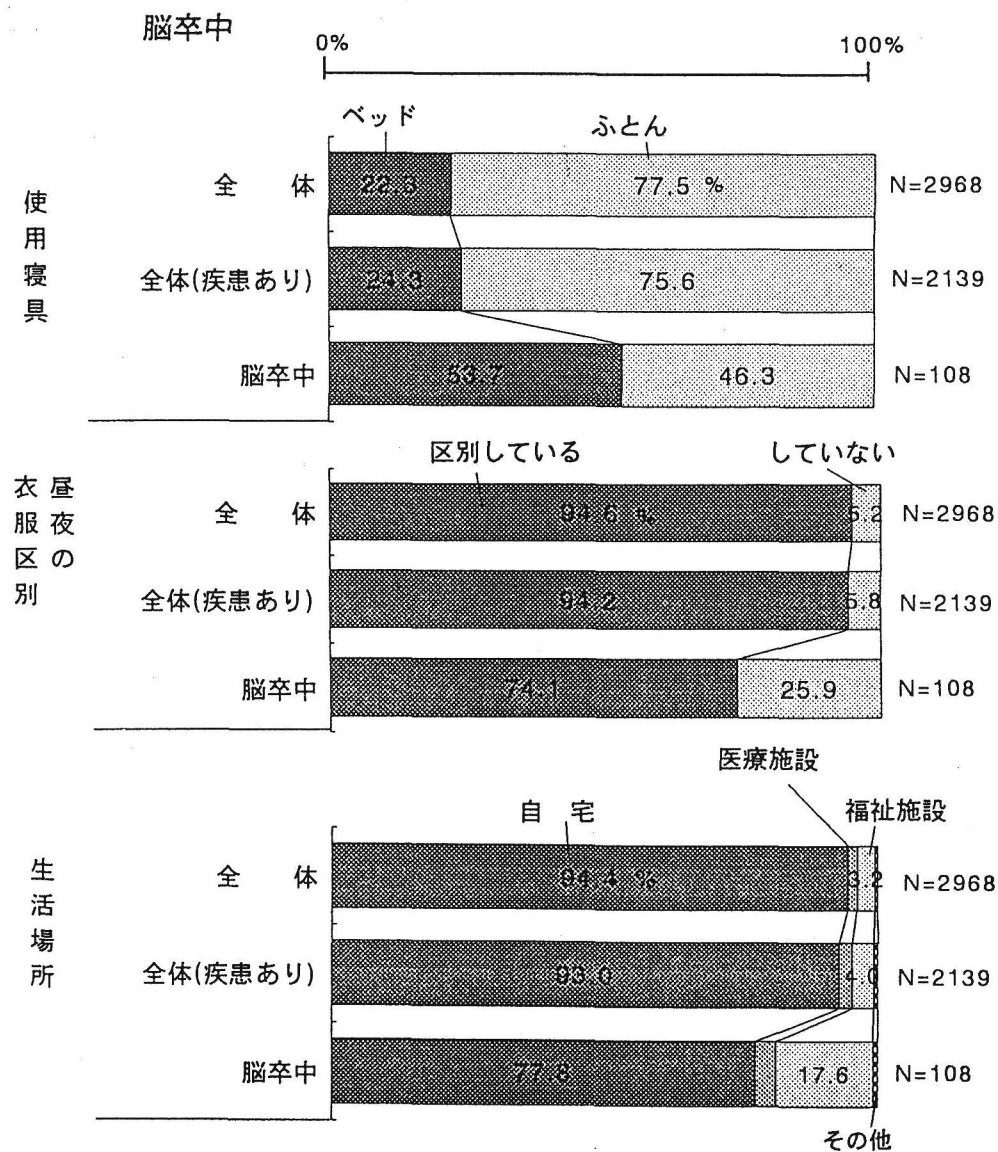
(B)-2 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

脳卒中では、他の疾病に比べて衣服の区別ができない割合が高い。

疾病がもたらす生活状態の特徴とも考えられる。

(B)-3 生活場所 との関係

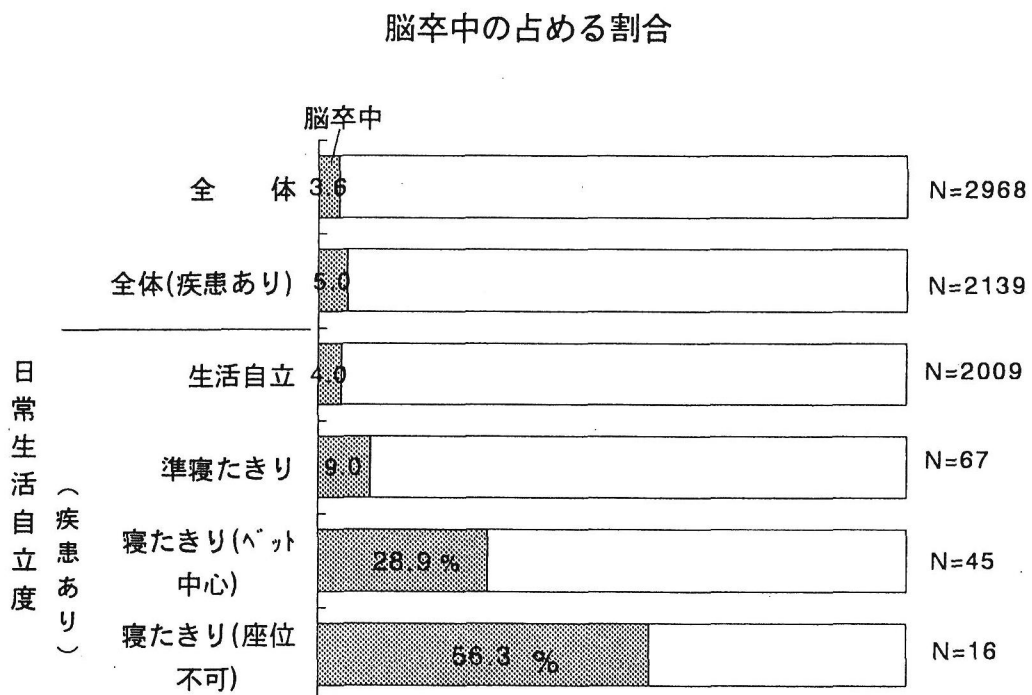
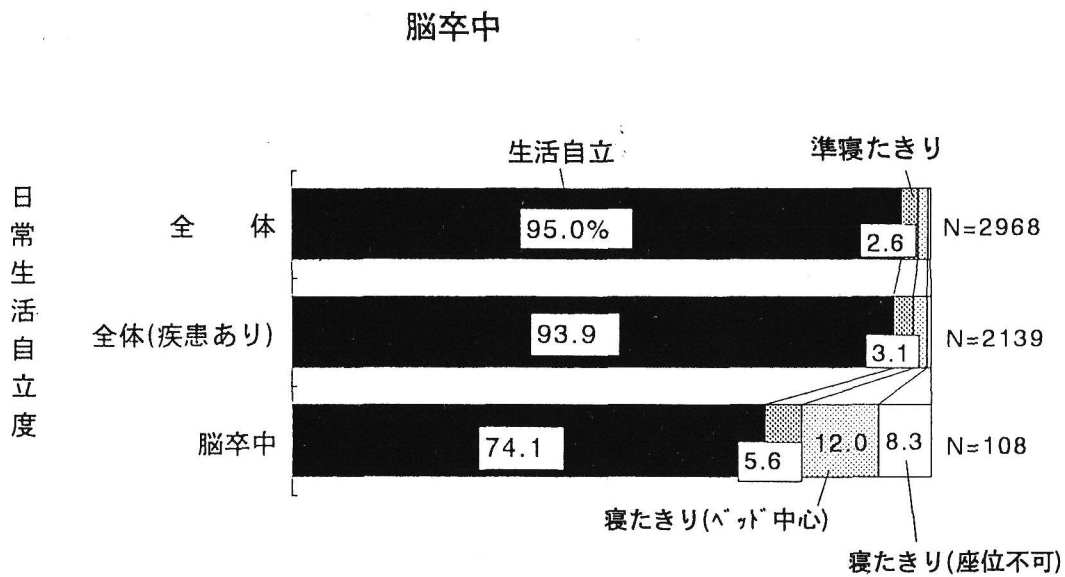
脳卒中では、他の疾病に比べて福祉施設に入所している割合が高い。



(B)-4 日常生活自立度 との関係

脳卒中では、他の疾病に比べて生活自立の割合が低く、また寝たきりの約36%が脳卒中が関係している。

脳卒中を予防することは、寝たきり者を減少させる重要な要因と思われる。(⑨-4参)

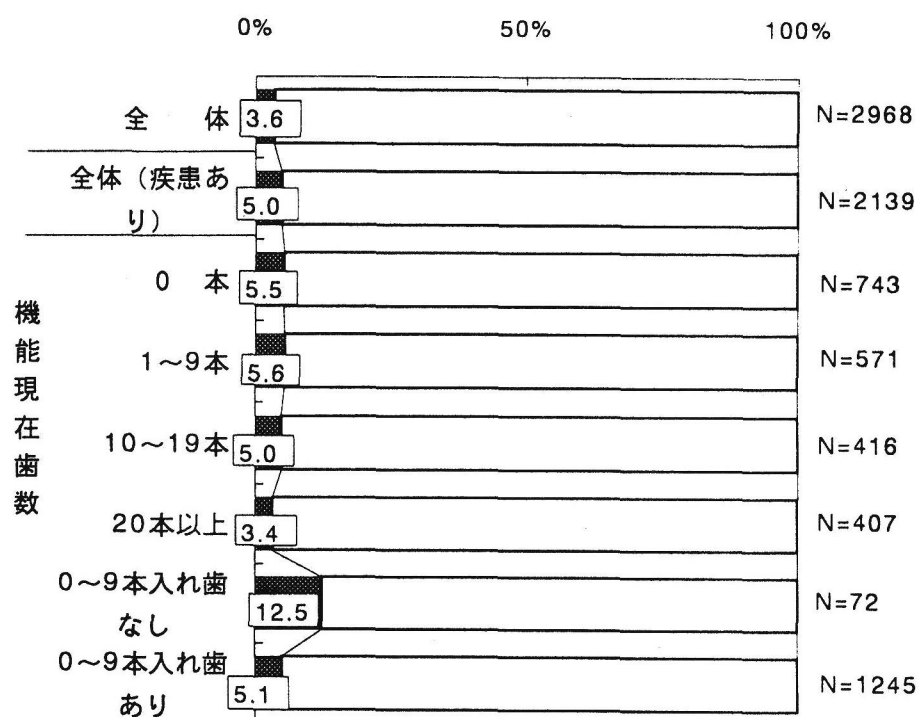


(B)-5 歯の状況（義歯の状況） との関係

脳卒中で機能現在歯数が0～9本で義歯なしの人は、12.5%と多かった。

脳卒中発病前から多いのか、発病後に義歯未使用になったのか調査の必要がある。

脳卒中の占める割合



⑨ 判定・評価（歯科）（P.49 参）

⑨-1 使用寝具 との関係

⑨-2 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

訪問治療を必要とする人では、ベッドを使用している人が37.9%、昼夜の衣服の区別をしていない人が20.7%と全体より多く、治療行為にも配慮する必要がある。

⑨-3 日常生活自立度 との関係

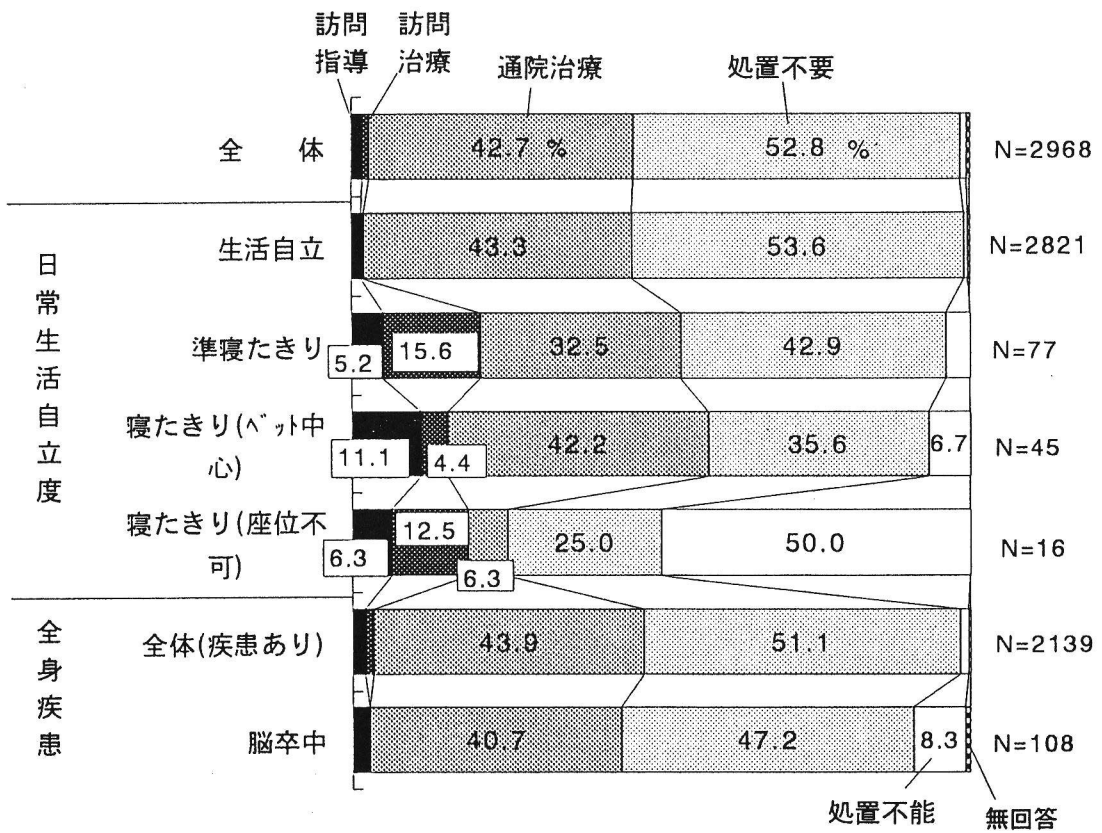
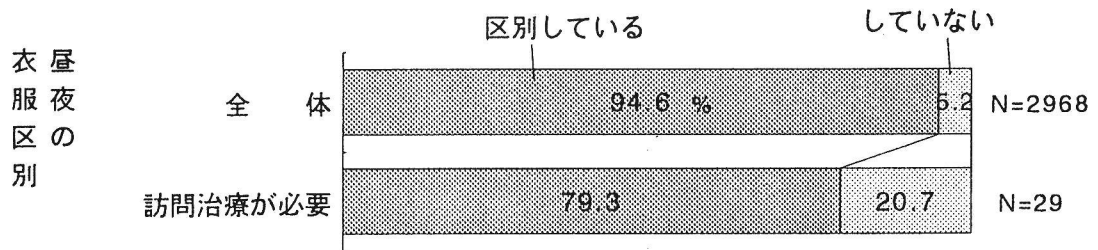
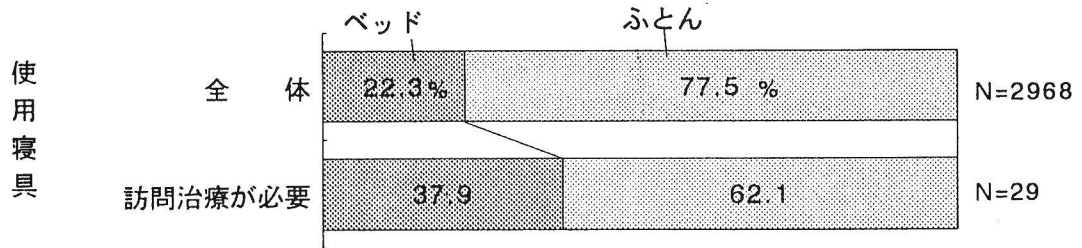
日常生活自立度が低下するほど通院治療が困難になり、訪問治療や処置不能の割合が高くなる。

生活自立している時期の治療の完了と口腔衛生指導の徹底が重要と思われる。

⑨-4 脳卒中 との関係

脳卒中は、処置不能の割合が高くなる。

判定・評価(歯科)



⑩ 年間総医療費（平成6年度）

(A) 【総医療費合計】（P.51、52参）

(A) - 1 性別 との関係

男性の方が年間総医療費が高かった。

(A) - 2 B. M. I.（体格指数） との関係

やせ傾向のある人の方が、年間総医療費が高かった。

(A) - 3 人口規模別 との関係

(A) - 4 高齢化率別 との関係

都市部（人口規模が大きく、高齢化率が低い地域）の方が、年間総医療費が高かった。

これは、都市部の方が医療施設や福祉施設の入所者を調査対象者として、選定した割合が高かったのが原因の一つと考えられる。（④ - 1、④ - 2、⑤ - 1、⑤ - 2参）

(A) - 5 使用寝具 との関係

(A) - 6 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

ともに日常生活自立度と相関し、また、年間総医療費とも相関している。（① - 1、② - 2、⑩ - (A) - 8参）

(A) - 7 生活場所 との関係

医療施設で比べると自宅は約28%、福祉施設は約72%の年間総医療費であった。

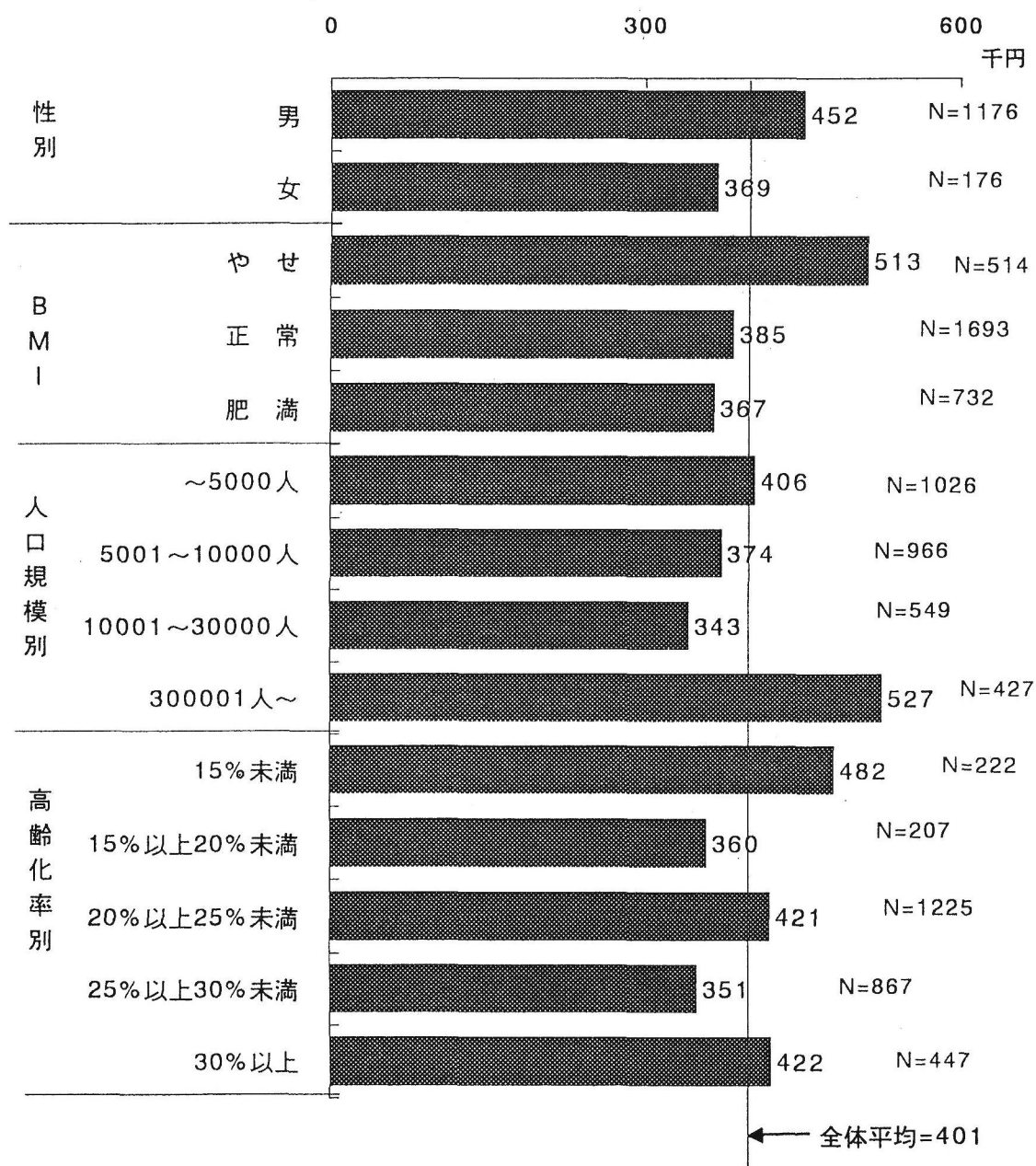
(A) - 8 日常生活自立度 との関係

日常生活自立度と年間総医療費には相関が認められる。

平成6年度年間総医療費 平均

<総医療費>

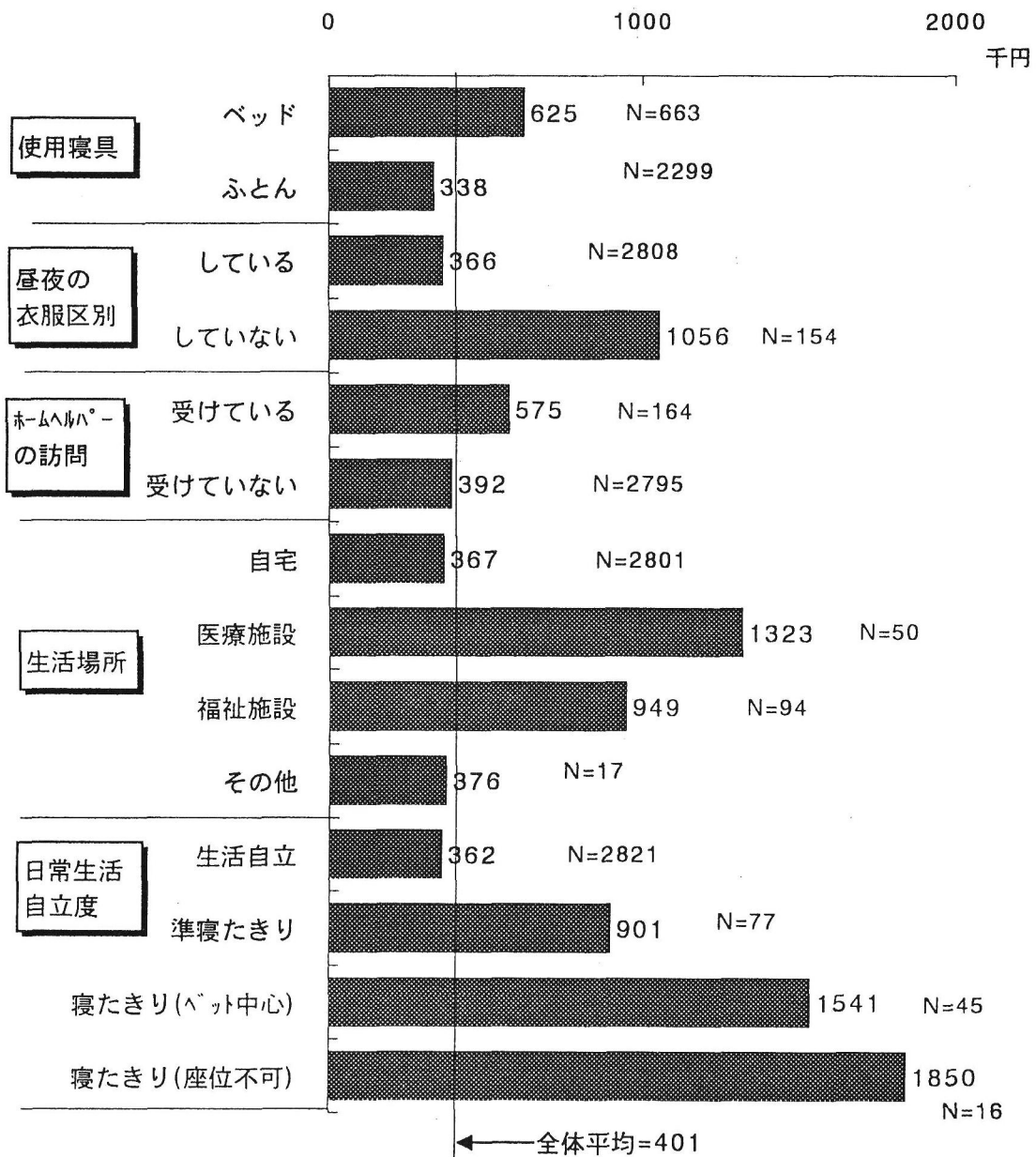
N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

<総医療費>

N=2968

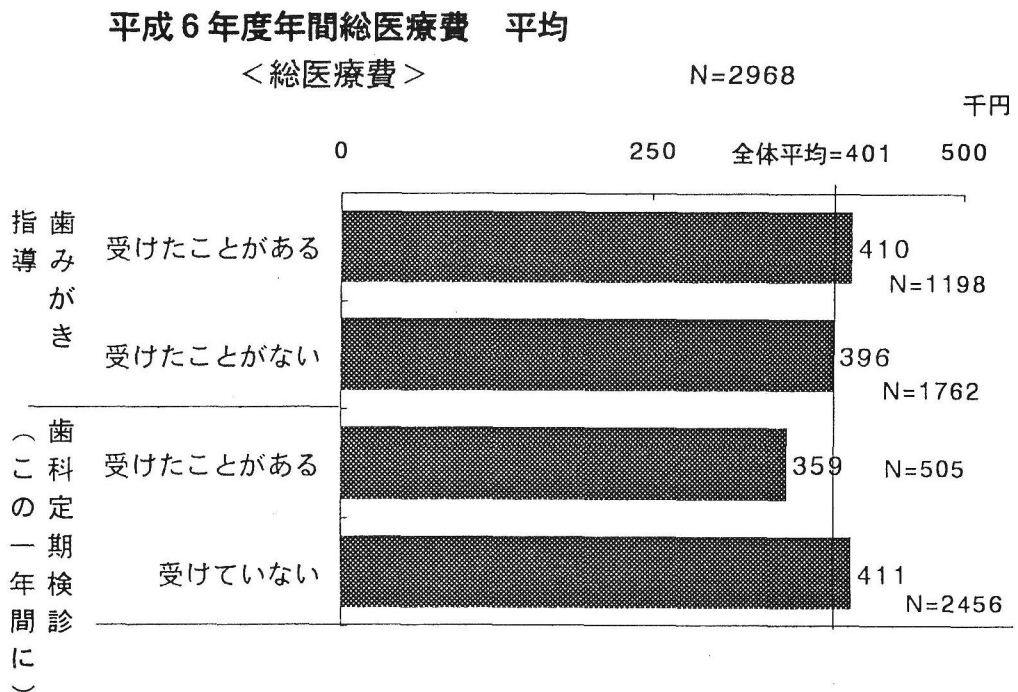


(A) - 9 歯みがき指導受診状況 との関係

(A) - 10 歯科定期検診受診状況 との関係

歯科定期検診（この1年間で）を受けた人は、そうでない人に比べて年間総医療費が低かった。

健康に対する意識の違いからかもしれない。



⑩ (A) - 11 咀嚼機能満足度 との関係 (P.55 参)

どんなものでも食べられる人は、生活自立度も高く (⑥ - 3 参)、自宅で生活している割合も高い。

(⑥ - 2、⑩ - (A) - 7、⑩ - (A) - 8 参)

また、健康状態も精神状態もよいと推察され、平均を下まわる年間総医療費の結果が出たと思われる。

⑩ (A) - 12 歯の状況

(機能現在歯数と義歯の状況と健全歯数) との関係

(P.55 参)

機能現在歯数及び健全歯数を20本以上有する人は、咀嚼機能満足度が高い結果が出ている。(⑥ - 4 参)

また、日常生活自立度との相関(⑦ - (A) - 2 参)も認められた。年間総医療費に関しては、機能現在歯(処置済歯、未処置歯、健全歯で咀嚼に関与できる歯をいう)が、20本以上あるグループが他より年間総医療費が低いという結果が出なかった。

これは、日常生活自立度と年間総医療費との相関(⑩ - (A) - 8 参)とも矛盾が生じる。

しかし、機能現在歯数が0～9本で義歯なしの人の、年間総医療費は平均を大きく上回っていた。

また、健全歯数を20本以上のグループは、他に比べて低い結果が出た。

高齢者になっても、自分の歯を健全な状態で20本以上有することは、並大抵の条件(生活環境、食事内容、衛生知識、歯の質等々)が重なり合わないと不可能であろう。

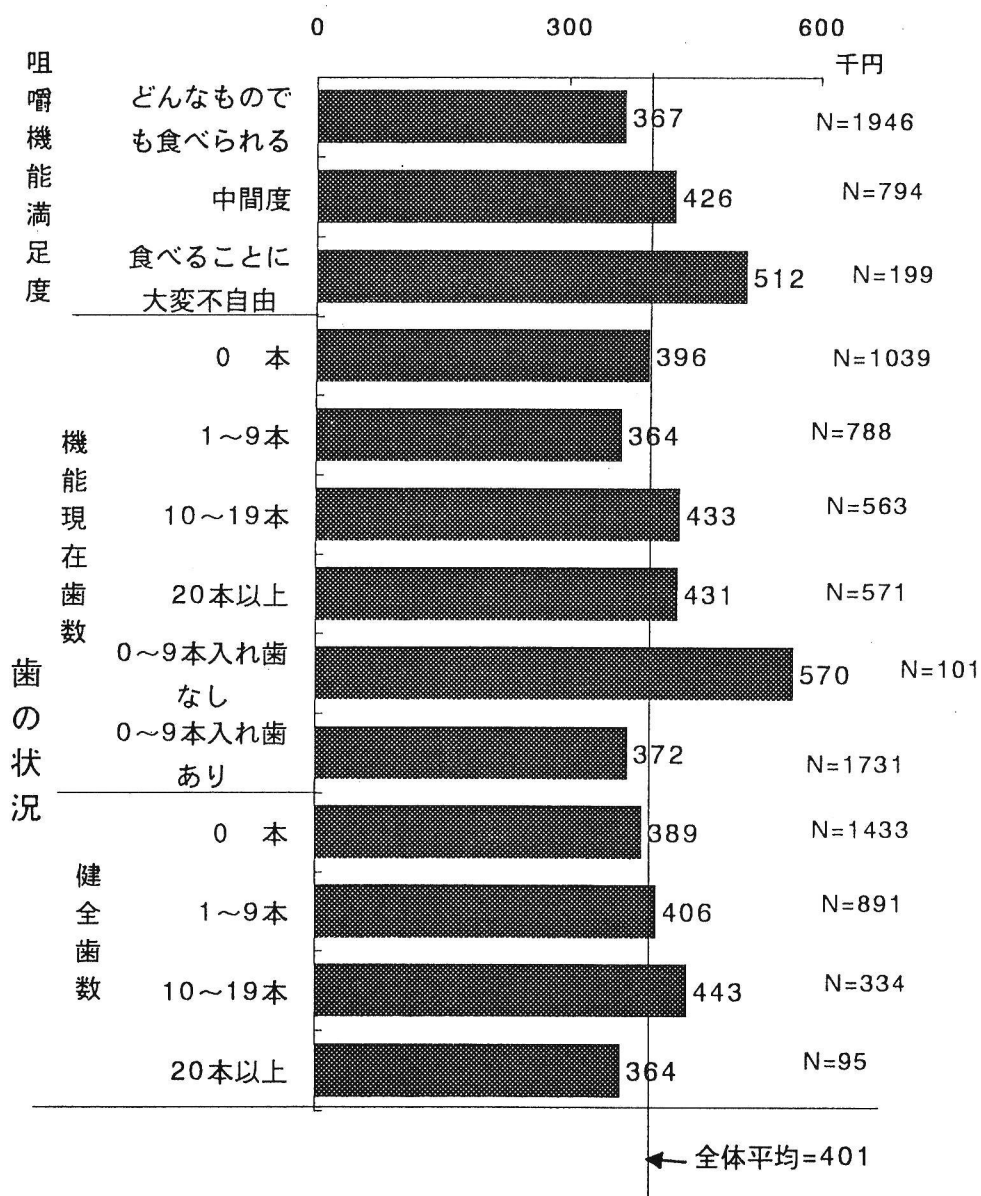
(95人 / 2,968人 = 3.2%)

しかし、それは歯科保健を担当する者の理想像であり、真の健康な口腔衛生状態に近いと思われる。そういう人が、健康で質の高い生活を送っている証として、低い年間医療費の結果として出たと思われる。

平成6年度年間総医療費 平均

<総医療費>

N=2968

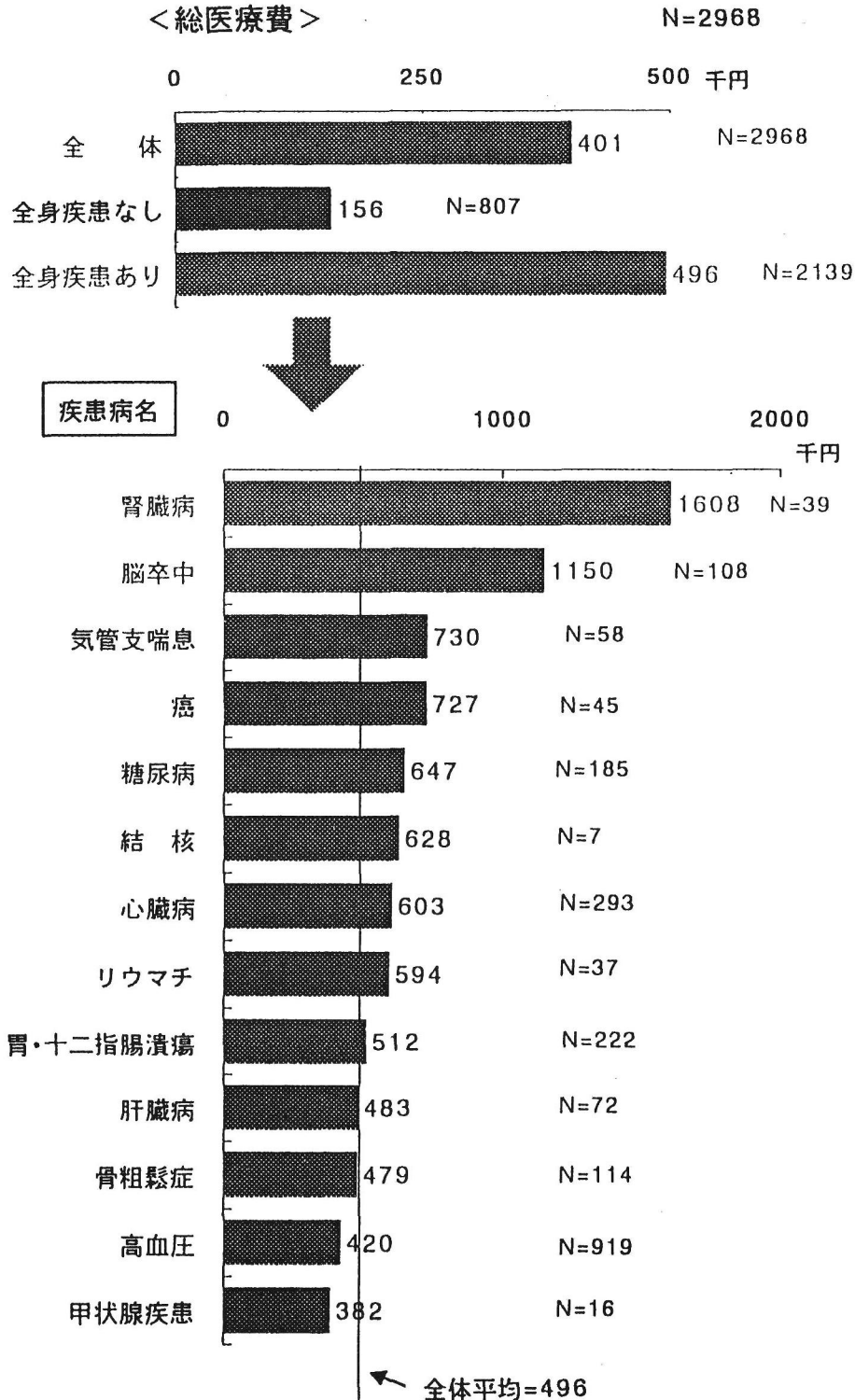


⑩ (A) - 13 全身疾患と疾患病名 との関係

全身疾患なしと答えた人の年間総医療費は、ありと答えた人の約31%であった。

疾患病名別では、腎臓病、脳卒中が平均を大きく上回っていた。

平成6年度年間総医療費 平均



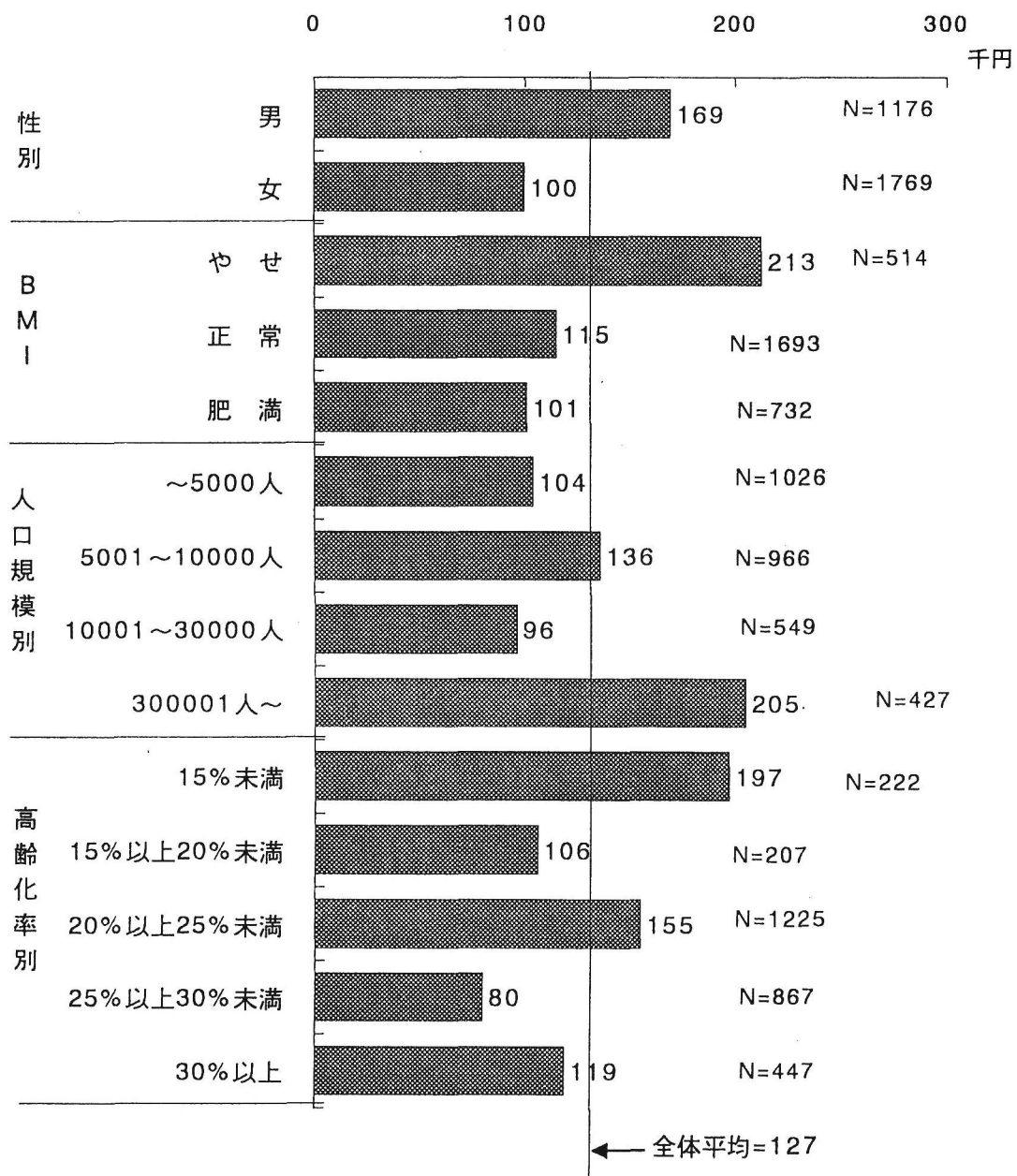
(B) 【入院】

- (B) - 1 性別 との関係
- (B) - 2 B. M. I. (体格指数) との関係
- (B) - 3 人口規模別 との関係
- (B) - 4 高齢化率別 との関係
- (B) - 5 使用寝具 との関係
- (B) - 6 昼夜の衣服の区別の状況 との関係
- (B) - 7 生活場所 との関係
- (B) - 8 日常生活自立度 との関係
- (B) - 9 咀嚼機能満足度 との関係
- (B) - 10 歯の状況
 - (機能現在歯数と義歯の状況と健全歯数) との関係
- (B) - 11 全身疾患と疾患病名 との関係

平成6年度年間総医療費 平均

<入院>

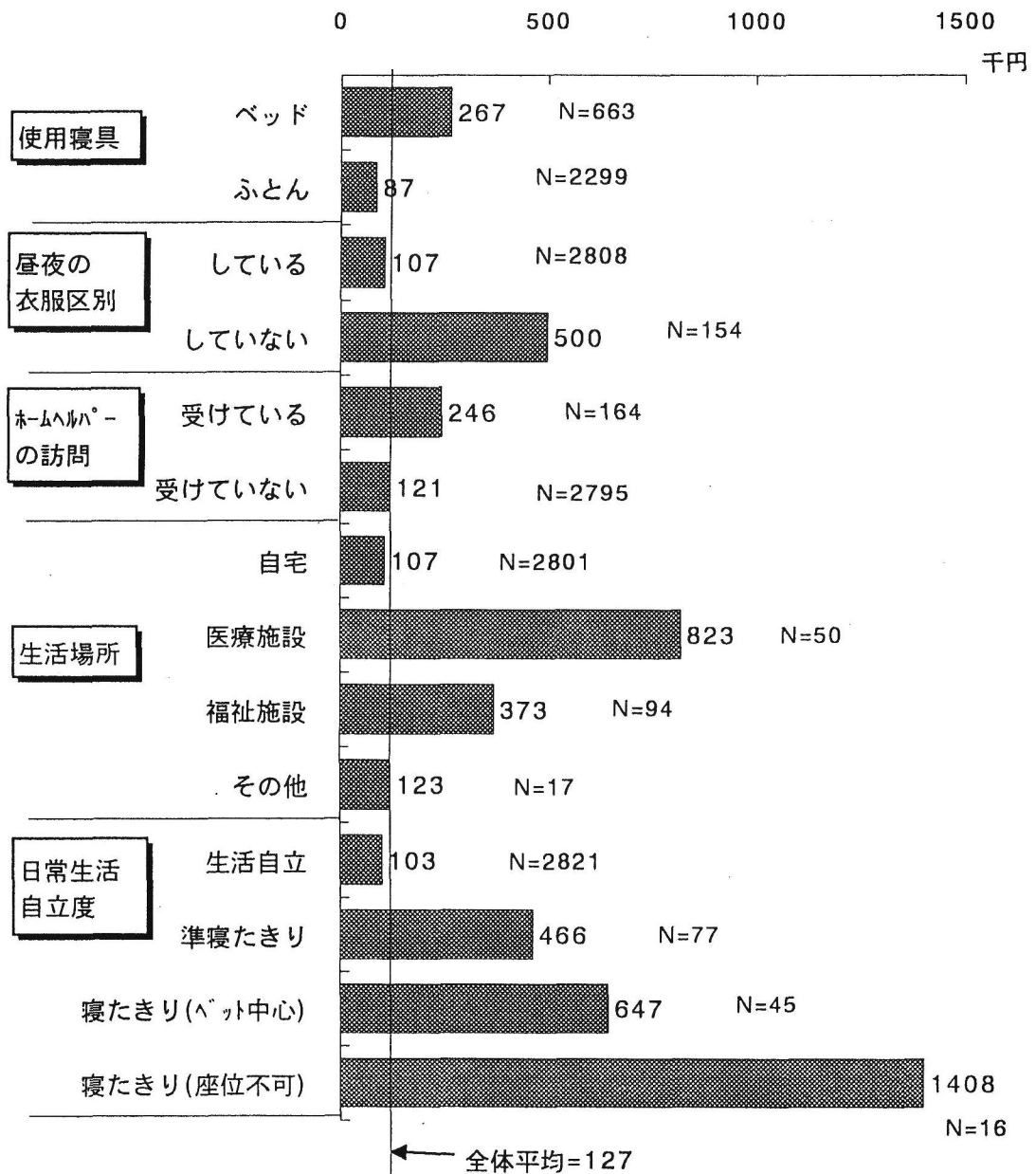
N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

<入院>

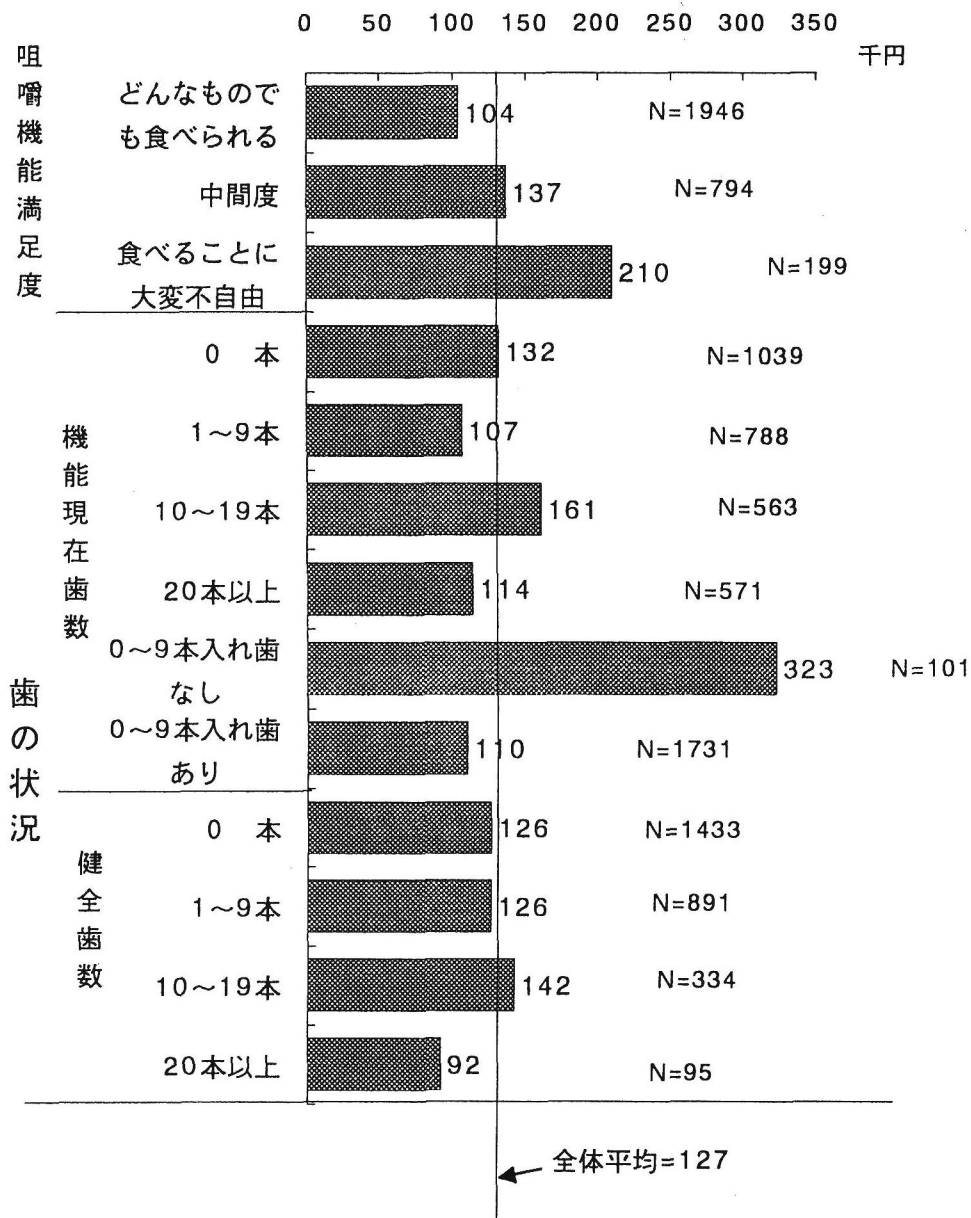
N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

<入院>

N=2968

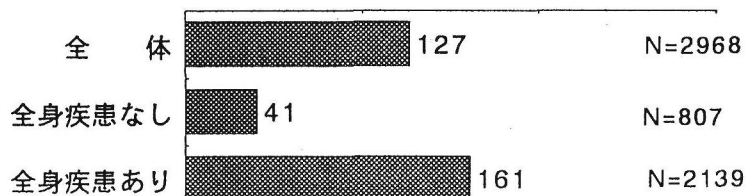


平成6年度年間総医療費 平均

<入院>

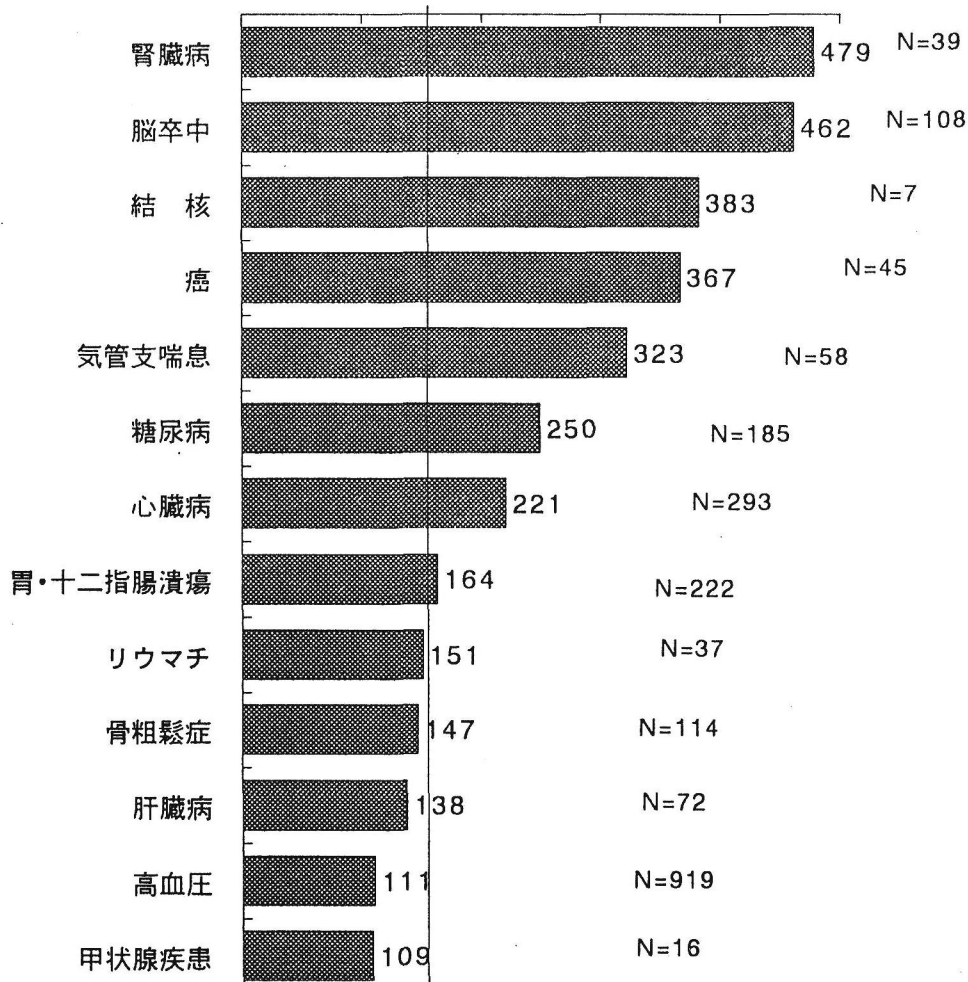
N=2968

0 100 200 300 千円



疾患病名

0 100 200 300 400 500 千円



← 全体平均=161

(C) 【入院外】 (P.63 ~66参)

(C)-1 性別 との関係

(C)-2 B. M. I. (体格指数) との関係

(C)-3 人口規模別 との関係

(C)-4 高齢化率別 との関係

(C)-5 使用寝具 との関係

(C)-6 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

(C)-7 生活場所 との関係

(C)-8 日常生活自立度 との関係

(C)-9 咀嚼機能満足度 との関係

(C)-10 歯の状況

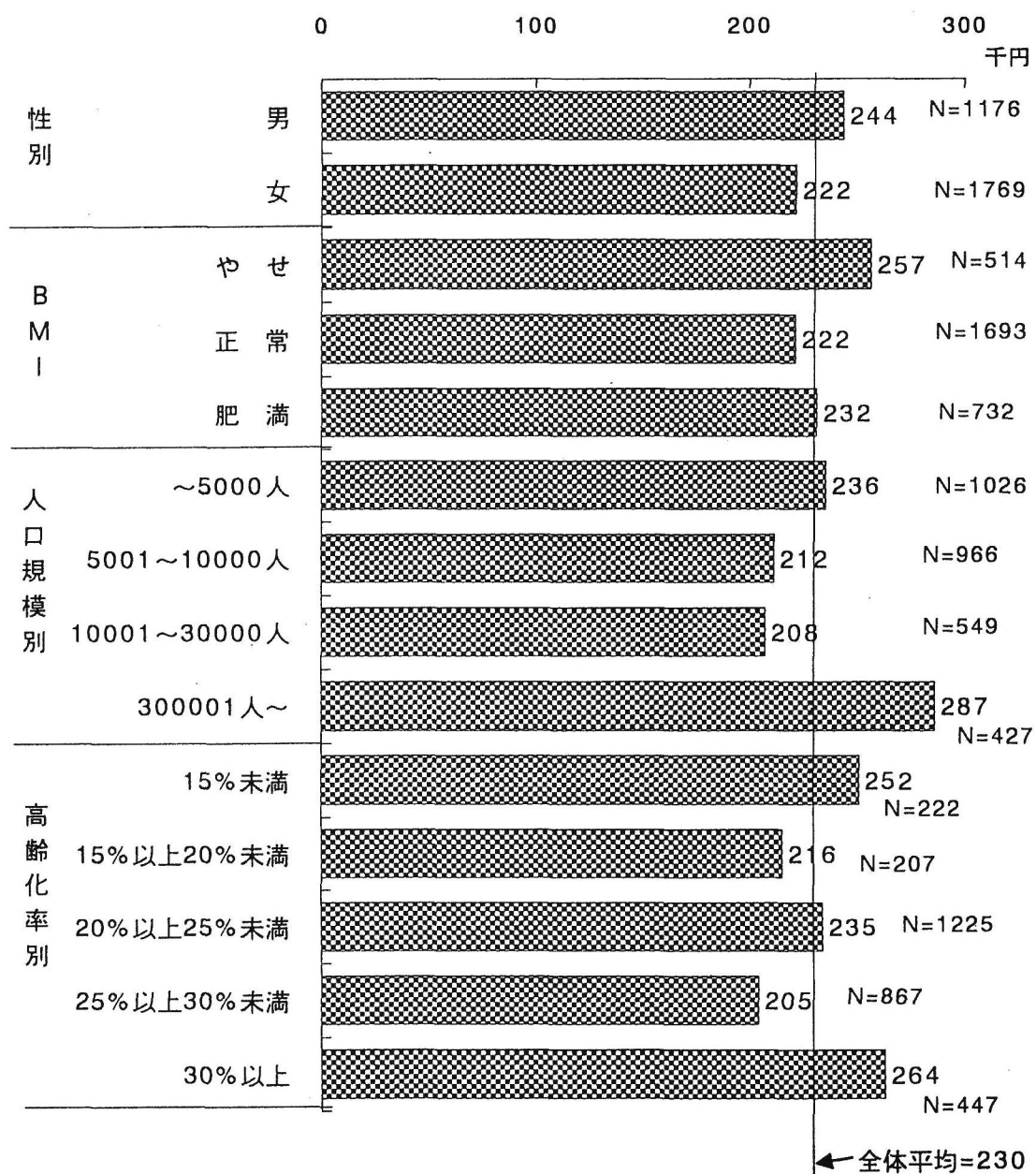
(機能現在歯数と義歯の状況と健全歯数) との関係

(C)-11 全身疾患と疾患病名 との関係

平成6年度年間総医療費 平均

<入院外>

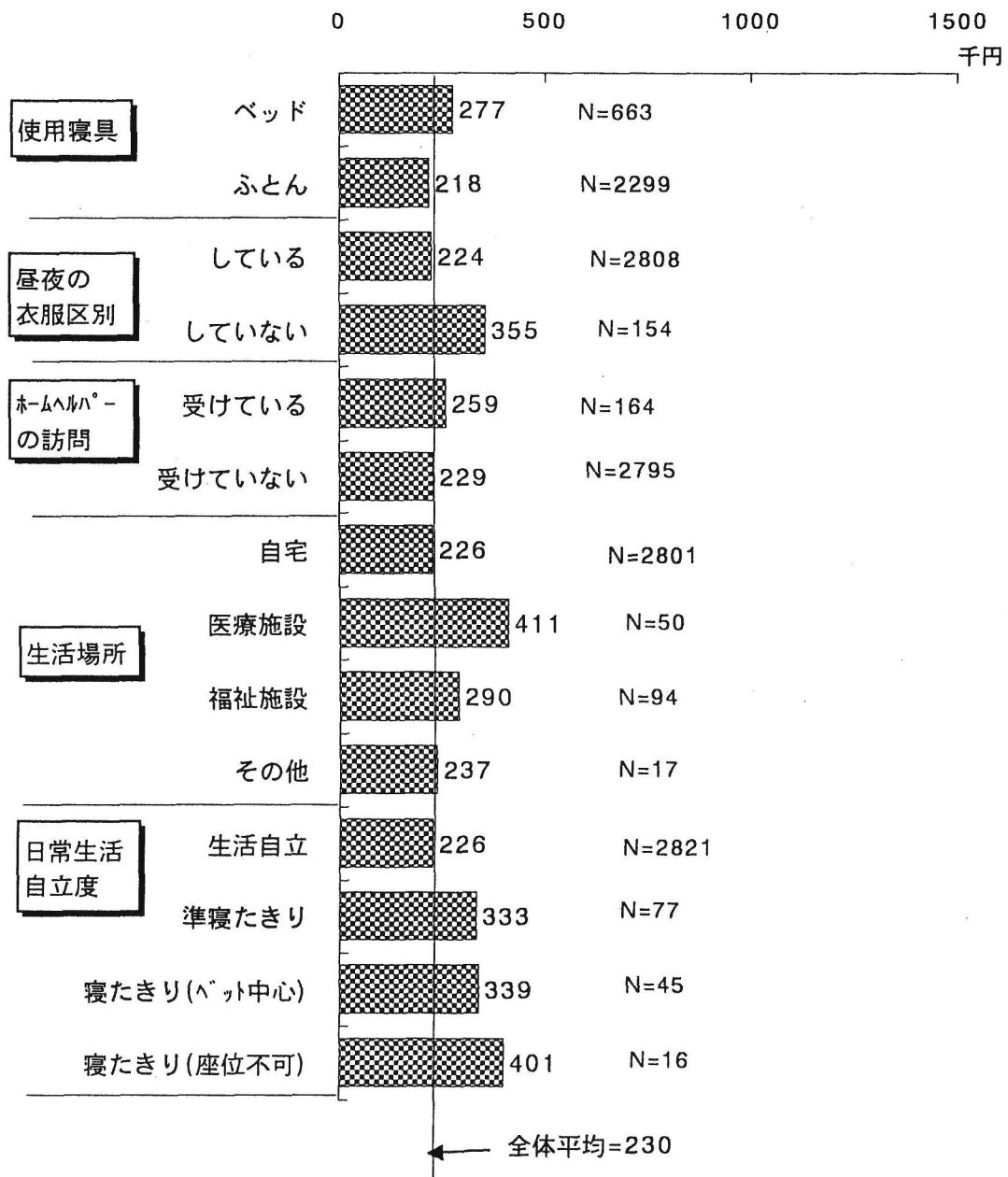
N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

<入院外>

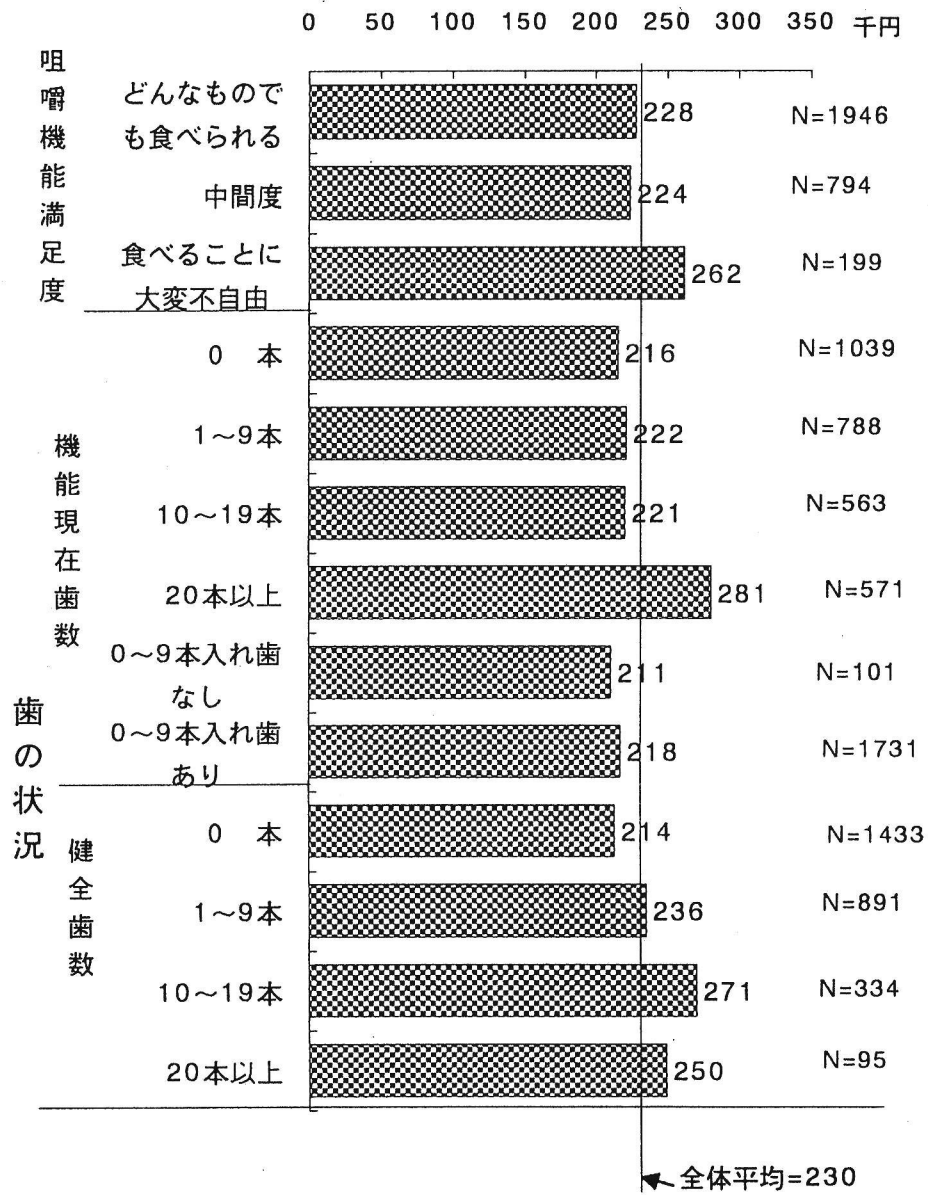
N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

<入院外>

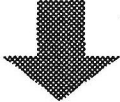
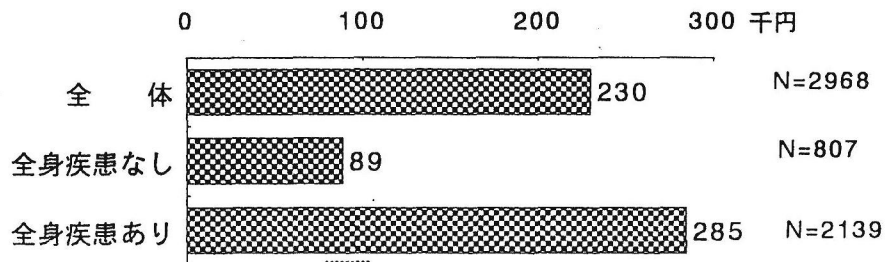
N=2968



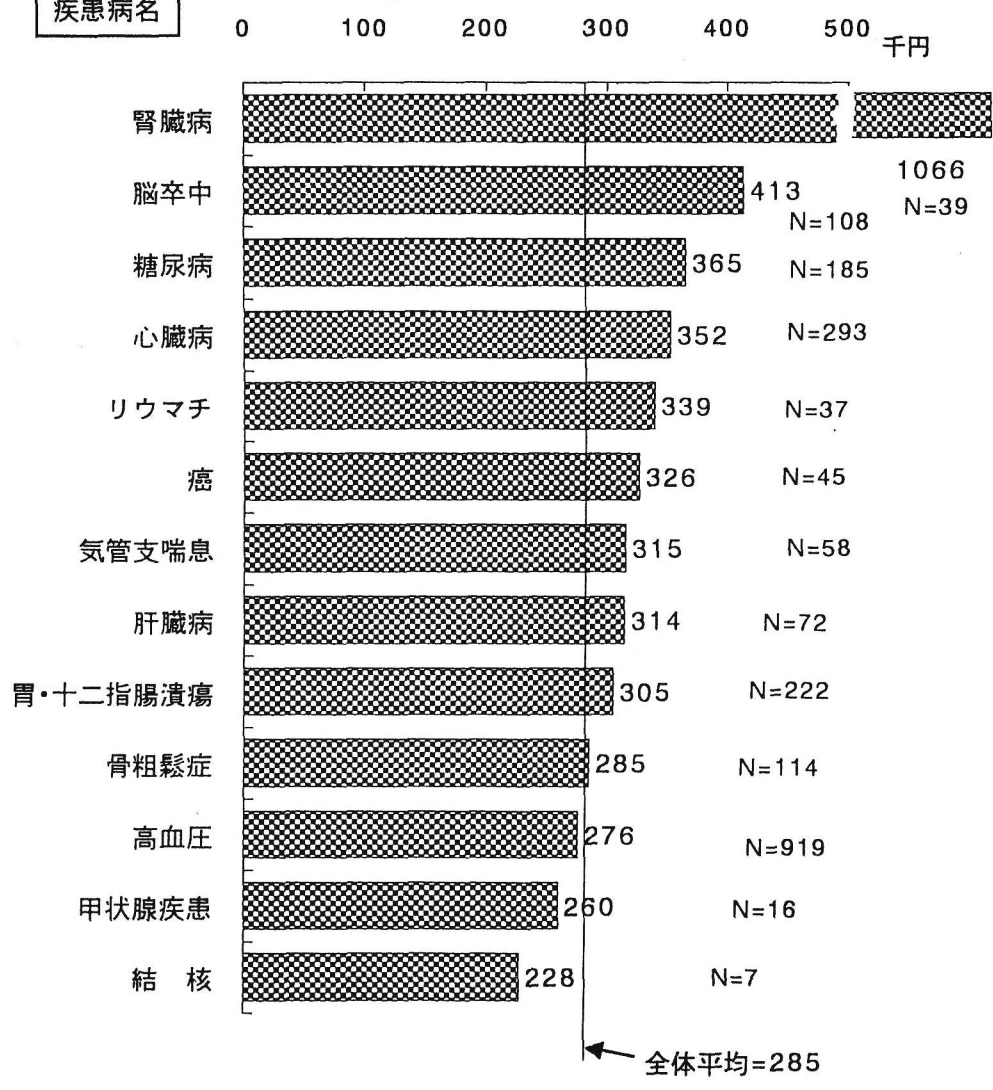
平成6年度年間総医療費 平均

<入院外>

N=2968



疾患病名



(D) 【歯科】

(D)-1 性別 との関係

(D)-2 B. M. I. (体格指数) との関係

(D)-3 人口規模別 との関係

(D)-4 高齢化率別 との関係

(D)-5 使用寝具 との関係

(D)-6 昼夜の衣服の区別の状況 との関係

(D)-7 生活場所 との関係

(D)-8 日常生活自立度 との関係

(D)-9 咀嚼機能満足度 との関係

(D)-10 歯の状況

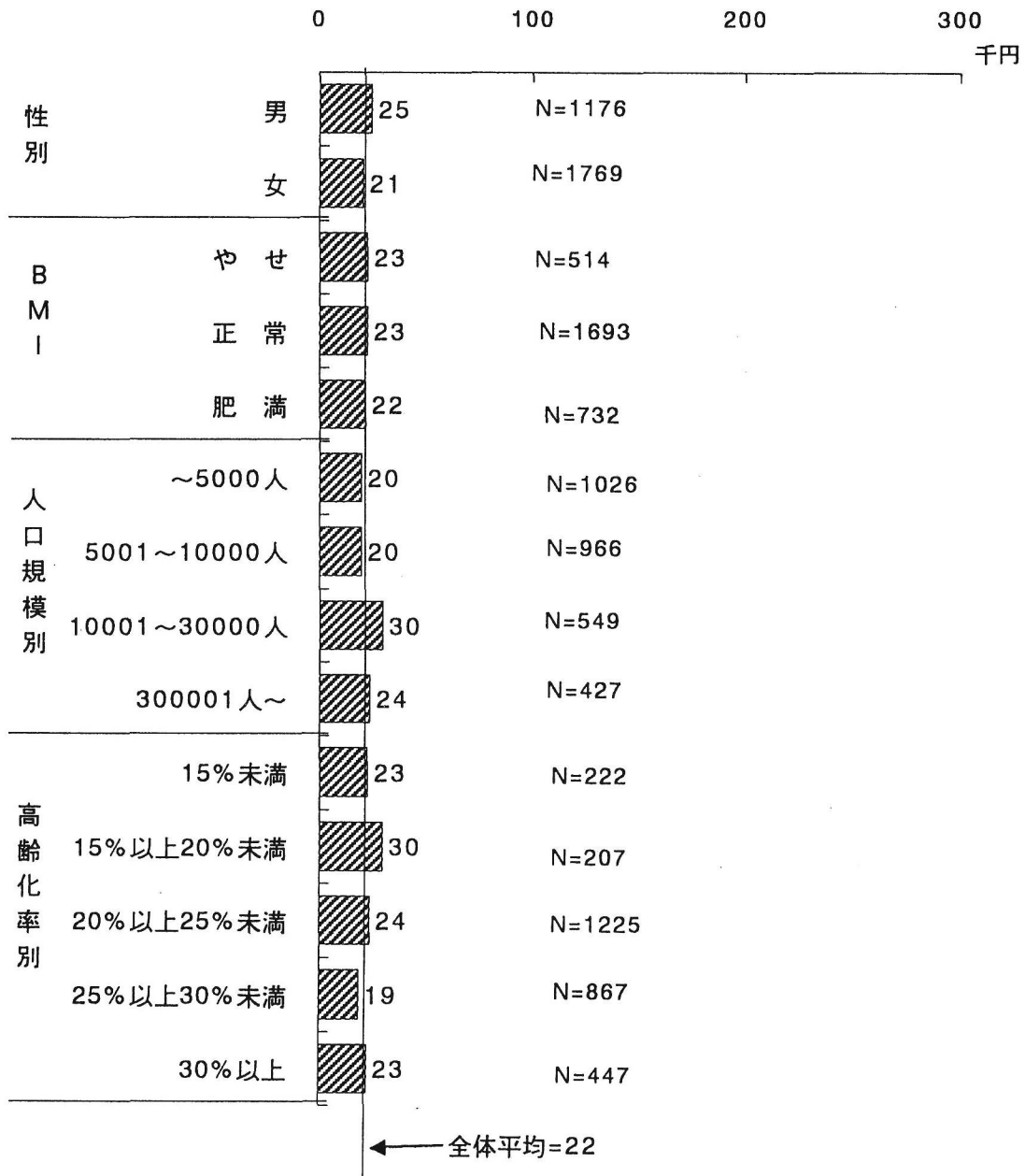
(機能現在歯数と義歯の状況と健全歯数) との関係

(D)-11 全身疾患と疾患病名 との関係

平成6年度年間総医療費 平均

< 歯 科 >

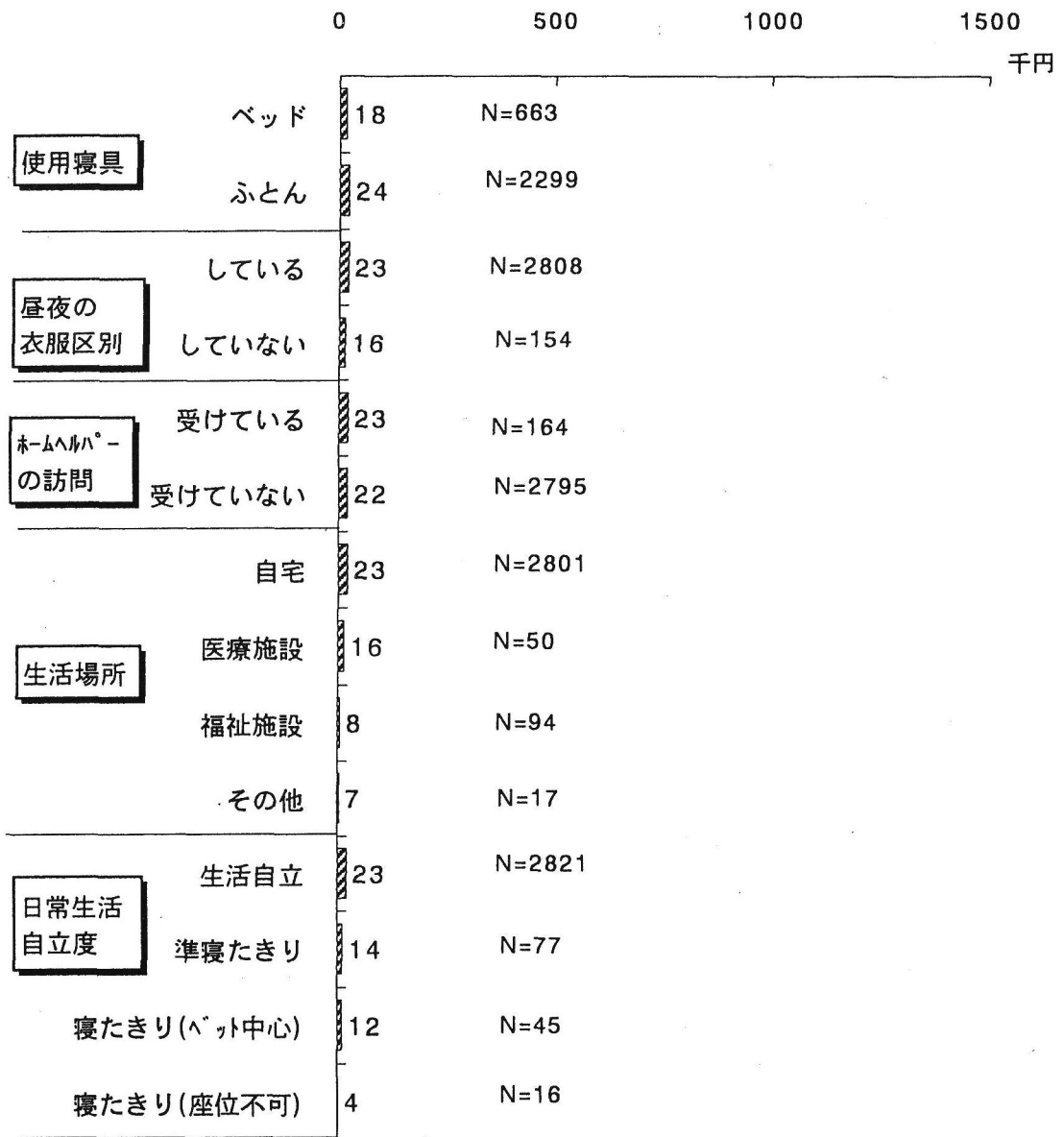
N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

<歯科>

N=2968

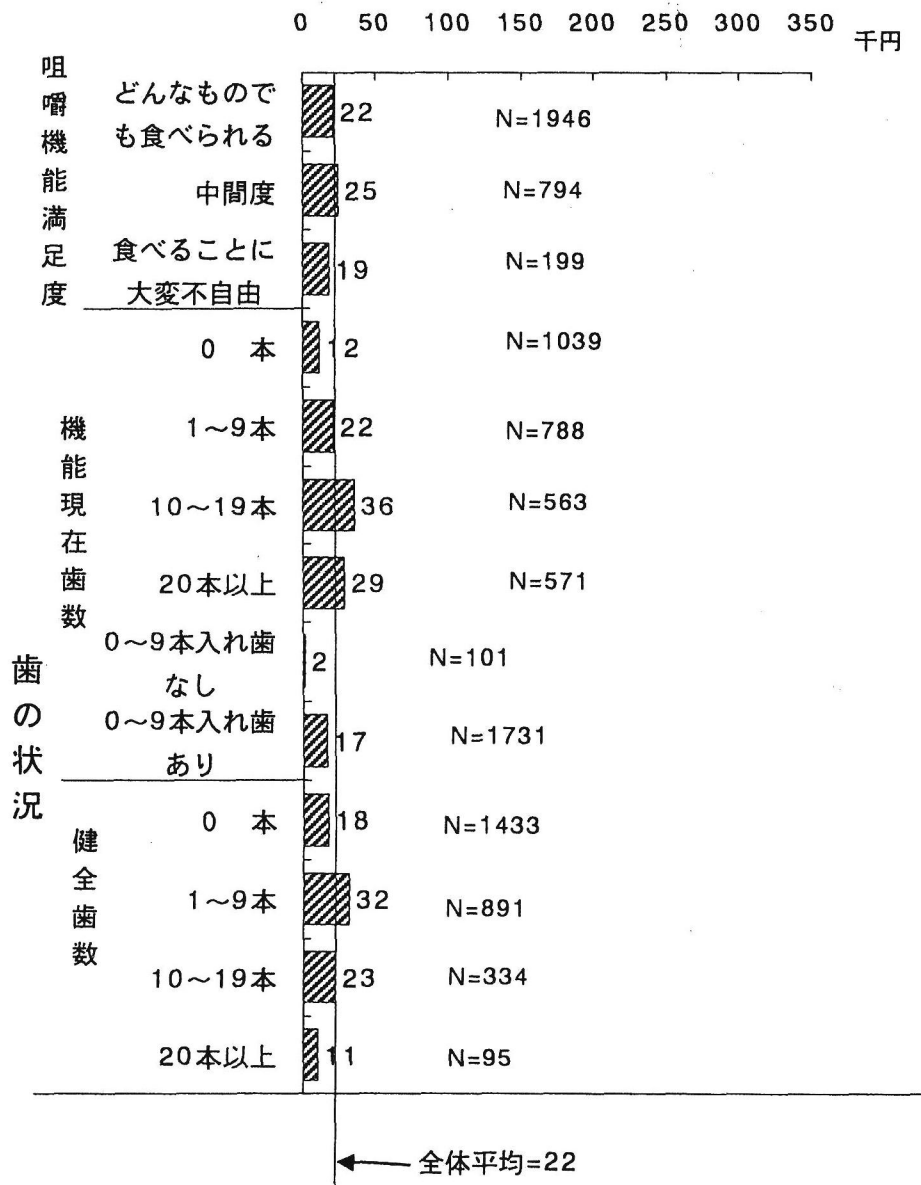


全体平均=22

平成6年度年間総医療費 平均

< 歯 科 >

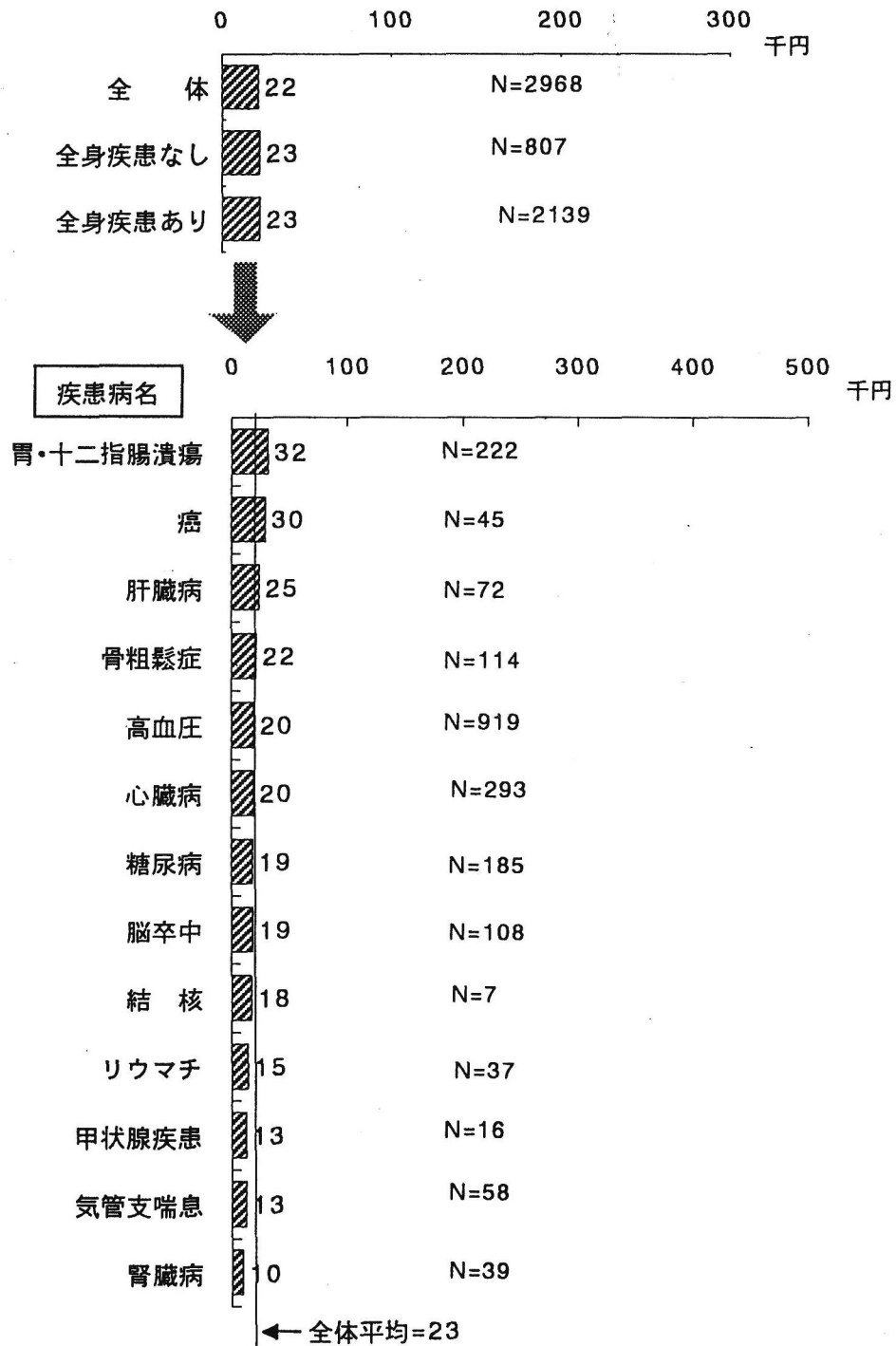
N=2968



平成6年度年間総医療費 平均

< 歯 科 >

N=2968



6. 結論・総括

今回は、全国の国保直診歯科（29施設）が、72歳を中心に2,968人を訪問面接調査を行い、歯科保健の実態、生活状況、年間総医療費等との関係进行分析したところ、次の結果を得た。

① 日常生活自立度の低い人は

- ベッドを使用している割合が高い。
- 昼夜の衣服の区別をしている割合が低い。
- 医療施設、福祉施設に入っている割合が高い。
- 咀嚼機能満足度が低い。
- 機能現在歯数0本の割合が高い。
- 機能現在歯数0～9本で義歯なしの割合が高い。
- 全身疾患を有する割合が高い。
- 脳卒中の割合が高い。
- 訪問歯科治療の必要性が高い。
- 年間総医療費が高い。

② ベッドを使用している人は

- 昼夜の衣服の区別をしている割合が低い。
- 医療施設、福祉施設に入っている割合が高い。
- 年間総医療費が高い。

③ 昼夜の衣服の区別をしていない人は

- ホームヘルパーの訪問を受けている割合が高い。
- 医療施設、福祉施設に入っている割合が高い。
- 咀嚼機能満足度が低い。
- 年間総医療費が高い。

- ④ 医療施設、福祉施設に入っている人は
咀嚼機能満足度が低い。（福祉施設<医療施設<自宅）
年間総医療費が高い。（自宅<福祉施設<医療施設）
- ⑤ ホームヘルパーの訪問を受けている人は
機能現在歯数20本以上の割合が低い。
- ⑥ 歯みがき指導を受けている人は
40.4%でありそのうち79.9%が医療機関で受診。
平均機能現在歯数が多い（10.7本 対 7.3本）
- ⑦ この1年間に歯科定期検診を受けている人は
17.0%でありそのうち47.1%が医療機関で受診。
年間総医療費が低い。
- ⑧ 咀嚼機能満足度が低い人は
年間総医療費が高い。
- ⑨ 機能現在歯数が多い人は
咀嚼機能満足度が高い。
- ⑩ 機能現在歯数0～9本で義歯なしの人は
咀嚼機能満足度が低い。
日常生活自立度が低い。
脳卒中の割合が高い。
年間総医療費が高い。
- ⑪ 健全歯数が多い人は
咀嚼機能満足度が高い。
年間総医療費が低い。
- ⑫ 歯ブラシ以外の清掃器具を使用している人の割合は
少ない。
- ⑬ 全身疾患を有するものは

年間総医療費が高い。

⑭ 脳卒中の人は

ベッドを使用している割合が高い。

昼夜の衣服の区別をしている割合が低い。

福祉施設に入っている割合が高い。

訪問歯科治療が必要な人の割合が高い。

機能現在歯数 0～9 本で義歯なしの場合が多い。

⑮ 訪問歯科治療が必要な人は

ベッドを使用している割合が高い。

昼夜の衣服の区別をしている割合が低い。

平成 6 年度の 80 歳を中心とした調査に引き続き、平成 7 年度は 72 歳を中心とした同様の調査を実施した。

詳細比較は、平成 6 年度の調査報告書と照らし合わせていただきたいが、特記項目を以下に記す。

1. 80 歳の調査で示された機能現在歯数と、年間総医療費との相関は認められなかった。
2. 機能現在歯数 0～9 本で義歯なしの人の年間総医療費は、高かった。
3. 80 歳の調査に比べ、日常生活自立度、歯磨き指導受診状況、歯科定期検診受診状況、咀嚼機能満足度、平均機能現在歯数、歯ブラシ以外の清掃用器具の使用状況が高かった。
4. 80 歳の結果に比べ、歯科の訪問指導、訪問治療の割合、年間総医療費が低かった。
5. 80 歳の結果と同様に、福祉施設の歯科保健の希薄さが明らかとなった。

以上

歯科的健康は、全身的健康、生活状況（生活の質、生活自立度等）にも関与していることが、再確認できた。

生涯歯科保健の目標として提唱されている「8020運動」は、単に歯を残すだけでなく、生活の質を確保、維持させていく上で、今後さらに重要視されていくと思われる。

しかし、平成6年度の結果では、「8005」であり、平成7年度では、「7209」であった。つまり今回の調査対象地域での平成15年度における目標は「8009」以下に設定せざるを得ないことになる。

介護をも含めた保健・医療・福祉のサービスのあり方が大きく変わろうとしている今日、我々国保直診歯科は、包括的地域歯科サービスの構築に向けて進んで行く必要がある。平成6年度に続き、平成7年度の本調査事業が、その契機になることを期待する。

